

平成 27 年度 事業報告

平成 28 年 5 月 27 日(金)

学校法人梅檀学園 理事会

目 次

I. 法人の概要	… 1
1. 設置学校	… 1
2. 学部・研究科等の学生数	… 1
3. 役員等の概要	… 2
4. 教職員数	… 2
5. 諸会議	… 2
II. 主な事業の概要	… 3
1. 大学改革について	… 3
(1) 学部学科の再編について	… 3
(2) 内部質保証について	… 3
(3) 高大接続改革について	… 3
2. 地方創生戦略への対応	… 3
(1) 地域人材育成のための教育課程の編成について	… 3
(2) ライオンズクラブとの連携	… 4
3. 仙台駅東口キャンパスについて	… 4
(1) 通信教育での活用	… 4
(2) 外部貸出	… 4
(3) 展示室、セミナー室（名称：TFU gallery Mini Mori）の開設	… 5
4. 教育・学生支援に関する事項	… 5
(1) 教育学研究科・教育学部教育学科・福祉行政学科の設置及び 社会福祉学科の定員増	… 5
(2) 入学式	… 5
(3) 学位記・卒業証書授与式	… 6
(4) 教育の質の保証	… 7
(5) 学生生活支援	… 8
(6) 防災士養成	… 11
(7) ボランティア支援	… 13
(8) 実学臨床教育推進	… 17
(9) ICT活用推進	… 19
(10) 福祉実習履修学生への支援	… 21
(11) 教職課程履修学生への支援	… 24
(12) 障がい学生への支援	… 25
(13) 特別支援教育	… 27
(14) 通信教育	… 28
(15) FD・SD	… 30
(16) 芹沢銈介美術工芸館	… 32
(17) 図書館	… 36
5. 入試に関する事項	… 39
(1) 入試センターのスタッフと業務	… 39
(2) 大学進学に関する状況	… 39
(3) 学生募集活動	… 39
(4) 入学試験の実施	… 40
(5) センター試験会場割り当て	… 42
(6) 広告出稿	… 42

(7) 印刷物の発行	… 43
(8) 高大連携	… 43
6. 就職支援に関する事項	… 44
(1) マッチング事業	… 44
(2) 各種ガイダンスやキャリア支援講座	… 45
(3) 就職が困難と予測される学生(卒業生)の支援	… 46
(4) 間接的支援事業	… 46
7. 研究に関する事項	… 48
(1) 研究事業の取り組み	… 48
8. 社会貢献に関する事項	… 49
(1) 生涯学習支援	… 49
(2) 地域共創の推進	… 51
(3) 臨床心理相談室	… 55
(4) 次世代育成支援	… 55
(5) 予防福祉・健康増進の推進	… 57
(6) 鉄道交流ステーション	… 59
9. 国際交流に関する事項	… 63
(1) 平成 27 年度交換留学・短期留学研修・学術交流 実績	… 63
(2) 平成 27 年度訪問受入実績(国別)	… 64
(3) 平成 27 年度その他の業務及び外部事業への参加報告	… 64
10. 災害対策	… 65
(1) 大規模訓練の実施	… 65
(2) 各施設の消防避難訓練の実施	… 66
(3) 大学の防災対応力の強化	… 66
(4) 安否確認訓練の実施	… 67
(5) 学内各キャンパスにおける放射線量の測定・公表	… 67
(6) 防災教育等の実施	… 67
11. 付随事業に関する事項	… 67
(1) 附属病院「せんだんホスピタル」	… 67
(2) 東北福祉看護学校	… 68
12. 仏教専修科関係	… 68
(1) 開講式	… 69
(2) 降誕会法要	… 69
(3) 施食会法要	… 69
(4) 「猿まわし」公演	… 69
(5) 両祖忌法要	… 70
(6) 臘八接心	… 70
(7) 成道会法要	… 70
(8) 安居説明会	… 70
(9) 涅槃会法要	… 70
(10) 東日本大震災犠牲者法要	… 70
(11) 定例坐禅会(ウィークエンド坐禅会)	… 70
(12) 朝課	… 70
(13) 大学訪問者への施設案内・坐禅体験等	… 71

I. 法人の概要

1. 設置学校

(1) 東北福祉大学

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1丁目8番1号

(2) 東北福祉看護学校 看護師養成所通信制2年課程

〒983-8511 宮城県仙台市宮城野区榴岡2丁目5番26号

2. 学部・研究科等の学生数

平成27年5月1日現在

学部・研究科等		入学定員	収容定員	学生数
大学院 総合福祉学研究科	社会福祉学専攻修士課程	10	30	15
	福祉心理学専攻修士課程	20	40	23
	社会福祉学専攻博士課程	3	9	12
大学院 教育学研究科	教育学専攻修士課程	10	10	6
通信制大学院 総合福祉学研究科	社会福祉学専攻修士課程	10	20	27
	福祉心理学専攻修士課程	10	20	4
大 学 院 計		63	129	87
総合福祉学部	社会福祉学科	400	1,300	1,615
	福祉行政学科	100	100	116
	福祉心理学科	120	480	592
	社会教育学科	0	300	414
合 計		620	2,180	2,737
教育学部	教育学科 初等教育専攻	210	210	223
	教育学科 中等教育専攻	40	40	43
合 計		250	250	266
子ども科学部	子ども教育学科	0	450	555
健康科学部	保健看護学科	70	280	305
	リハビリテーション学科	80	320	358
	医療経営管理学科	80	320	356
合 計		230	920	1,019
総合マネジメント学部	産業福祉マネジメント学科	100	400	468
	情報福祉マネジメント学科	100	400	455
合 計		200	800	923
学 部 計		1,300	4,600	5,500
通信教育部 総合福祉学部	社会福祉学科	600	2,400	2,324
	福祉心理学科	200	800	782
	社会教育学科	0	0	1
	科目等履修生	—	—	780
通信教育部 計		800	3,200	3,887
科目等履修生・研究生・聴講生等		—	—	15
東北福祉大学 計		2,163	7,929	9,489
東北福祉看護学校		250	500	377
合 計		2,413	8,429	9,866

3. 役員等の概要

		現 員	定 数	備 考
役員	理 事	13	13	うち理事長 1, 常務理事 1 人
	監 事	2	2	
	計	15	15	
評 議 員		27	27	うち 寄附行為 23-1-(3):理事長,常務理事 寄附行為 23-1-(1):教職員 12 人 寄附行為 23-1-(2):同窓会員 6 人 寄附行為 23-1-(4):学識経験者 7 人

4. 教職員数

平成 27 年 5 月 1 日現在

教員			職員（正・嘱託）			合計
専任	兼任	計	専任	嘱託	計	
215 名 定年制 131 名 任期制 84 名	418 名 非常勤 316 名 特任等 102 名	633 名	214 名	55 名	269 名	902 名

5. 諸会議

会議名	実施日	内容
理事会	5 月 14 日 8 月 26 日 12 月 6 日 3 月 3 日	学校法人の業務を決する。事業（計画・報告）の承認、財務（予算・決算）の承認等
評議員会	5 月 14 日 12 月 6 日 2 月 29 日	評議員会に付議される事項について決議
教授会	4 月 1 日 5 月 13 日 7 月 8 日 10 月 7 日 11 月 4 日 1 月 13 日 3 月 2 日 3 月 23 日	学生の異動、学則の変更、入試、その他重要事項について審議
部長学科長会議	4 月 1 日 5 月 13 日 6 月 3 日 7 月 8 日 9 月 9 日 10 月 7 日 11 月 4 日 12 月 2 日 1 月 13 日 2 月 10 日 3 月 2 日 3 月 23 日	大学の適正な運営を確保するために必要な事項につき審議。
人事委員会	12 月 16 日 1 月 6 日 1 月 20 日 2 月 10 日 3 月 2 日	教員の採用・昇任・降任について審査。

II. 主な事業の概要

1. 大学改革について

(1) 学部学科の再編について

本年度（平成 27 年度）から、学部学科再編検討委員会を立ち上げ、3 月末までに 7 回の委員会を開催し、学力の 3 要素（①知識・技術②思考力・判断力・表現力③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）の育成のための、高校における学習指導要領の抜本的な見直しや大学入学者選抜改革、大学教育改革も含めて、全学部総合的に検討しているところである。

(2) 内部質保証について

本年度（平成 27 年度）から、内部質保証ポリシー、内部質保証規程、内部質保証委員会規程、内部質保証システム実施マニュアルを整備して、方針と手続を明確にし、PDCA のサイクルが実行できるようにした。

平成 27 年 3 月までに、平成 27 年度の各学部学科・部署毎の目標設定と自己点検評価の実施及び平成 28 年度の目標設定を実施した。平成 28 年度目標については、3 月の理事会で報告し達成に向けて取り組んでいるところである。

(3) 高大接続改革について

高大接続改革の中の「高大連携」及び「大学入学者選抜改革」については、平成 28 年 4 月から入試センターを入学センターに名称変更し、その配下に新たに高大連携・入試開発室を設けるとともに、新たに高大接続事業委員会を設置し、検討しているところである。

高大接続改革の中の「大学教育改革」については、新たに大学未来会議を設置し、学部学科の再編とともに、検討しているところである。

2. 地方創生戦略への対応

(1) 地域人材育成のための教育課程の編成について

地域人材育成のための教育課程の編成について、地元企業等と協議の場をもち産学連携で何ができるかを話し合った。

- 東京中心の歴史観の中で、若者には東京依存、東京コンプレックス、東京への憧れがある。そのため、「東北の歴史」や「東北論」のような科目を設けて東北の歴史観を根付かせてはどうか。東北の歴史観が根付けば、東京コンプレックスをある程度断ち切れるのではないか。
- 近年、企業でも地域に貢献させる人材を置くという動きに変わってきている。テクニカルな部分については、入社してから如何様にでもなるが、資質やマインドについては、若いうちから研き育てていく必要がある。

- 地域創生を踏まえると、地域が継続して発展していけるような産業を興したり、雇用を創出したりする必要がある。そのためには、地域でのビジネスチャンスに目を向けていける人材が必要である。

等の意見が交わされた。それらの意見を具現化するために、教育課程に以下を取り入れることの検討を今後進めていくことになった。

- 仙台・東北の歴史講義
- 成長する元気な東北企業の創業者（社長）等との対話（講義）
- 国際貢献
 - 北東南アジア等からの留学生を育成して、自国に戻し、自国の発展に貢献する人材の育成
 - 多言語化ビジネスの実践（案内表示、ガイドブック、案内、・・・）
- 地域共創実践活動：科目を設け実施中、さらなる充実。

(2) ライオンズクラブとの連携

仙台地区のライオンズクラブから、本学にレオクラブ（LEO CLUB）設立の打診があり設立に向けて協議を進めている。

レオクラブは、ライオンズクラブと連携し地域・国際社会の諸課題に関する活動を通じて、学生に、社会において自分の役割を果たして貢献する機会（Opportunity）と個性豊かな人間に成長するための経験（Experience）を与え、学生が、指導力（Leadership）を獲得することを目的とするクラブである。指導力（Leadership）、経験（Experience）、機会（Opportunity）の頭 3 文字をとって LEO クラブとしている。

本学のメリットとして、①ライオンズクラブの支援を得ることによる活動の向上②地元で活躍する社会人との人脈の構築⇒新たな就職支援③新たな奉仕活動の創造④ライオンズクラブの実施している交換留学生制度の活用⑤ライオンズクラブから外部講師を招聘し、学生の要望に応じた講演会⇒新たな就職支援、等があり、地域・国際社会に貢献できる人材の育成に資すると思慮される。

3. 仙台駅東口キャンパスについて

(1) 通信教育での活用

平成 27 年 4 月から、本学通信教育部と東北福祉看護学校（通信制）の授業を開始した。年間 228 日間、延べ約 11,100 人の学生がスクーリング等で利用した。交通の便が良く喜ばれている。

(2) 外部貸出

学生が利用していない教室・演習室等については、進学塾の説明会や大学の入試等で年間 123 日間外部に貸し出している。

(3) 展示室、セミナー室（名称：TFU gallery Mini Mori）の開設

平成 28 年 2 月 12 日に本学、仙台市、河北新報社の 3 者で締結した仙台駅東口キャンパスにおける「地域人材育成及び社会貢献事業に関する包括的連携協定」に基づいて、現在改修を進めており、7 月下旬から企画展等を開催予定である。企画展等に企画段階から学生が参加することにより、「学力の 3 要素」（①知識・技術②思考力・判断力・表現力③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）の内の、特に、③を育成する。

展示室、セミナー室の開設は、仙台駅東口駅前の活性化に貢献するとともに仙台・東北の文化的発展にも大きく役立つ。また、新聞、テレビ等で仙台駅東口キャンパスが年間を通じて広報されることから、大きな広報効果もある。

4. 教育・学生支援に関する事項

(1) 教育学研究科・教育学部教育学科・福祉行政学科の設置及び社会福祉学科の定員増

平成 27 年 4 月から開設した学科については、定員を充足し、順調に人材育成を進めている。しかし、教育学研究科については、定員を充足することができなかった。定員充足のための一層の努力が必要である。

(2) 入学式

平成 27 年度入学式が 4 月 3 日、春の日差しが降り注ぐ中、福聚殿で執り行われた。保護者も多数参加し、会場は熱気に包まれた。

通学制大学院は博士課程 5 人、修士課程は社会福祉学専攻 9 人、福祉心理学専攻 11 人、教育学専攻 1 人。通信制大学院は社会福祉学専攻 8 人、福祉心理学専攻 2 人。

総合福祉学部は編入生を含め、社会福祉学科 454 人、福祉心理学科 143 人、福祉行政学科 116 人、総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科 102 人、情報福祉マネジメント学科 101 人、教育学部教育学科初等教育専攻 226 人、中等教育専攻 45 人、健康科学部保健看護学科 78 人、リハビリテーション学科の理学療法学専攻 48 人、作業療法学専攻 42 人、医療経営管理学科 84 人、総合福祉学部社会教育学科 1 人（編入だけ）で、合計 1,476 人が対象だった。

萩野浩基学長はあいさつの冒頭で、いまだ見つからない東日本大震災の犠牲者の遺体の数を挙げ、全員に黙祷を呼びかけた。続けて「イギリスの哲学者、バートランド・ラッセルは人間に大切なことを 4 つ挙げている。一つは元気。二つ目は忍耐。三つ目は勉強。四つ目は感性。皆さんは二度とない人生、キャンパスラ

イフを彩って、人生を芸術してください。入学おめでとう」と述べた。

祝辞は曹洞宗管長・江川辰三老師の言葉を本学理事の喜美候部謙史老師が代読。「皆さんが将来の日本の力になってもらえるものと期待する」と激励した。

また、本学客員教授で衆議院議員の伊藤信太郎氏は「どんな人にも必ず生まれている使命がある。福祉の真髄は命の輝き。日本の未来は皆さんの双肩にかかっている」と期待を寄せた。

新入生代表は社会福祉学科の岡村了君。「私たちは、新たな社会を構築するための有為な人材となるために、力いっぱい努力することを誓います」と力強く宣誓文を読み上げた。

(3) 学位記・卒業証書授与式

3・11 東日本大震災から5年が経過した3月18日、平成27年度「学位記・卒業証書授与式」が本学福聚殿で執り行われた。学位記は大学院の修了生が通学制15人、通信制7人。卒業証書は社会福祉学科351人、社会教育134人、福祉心理145人、産業福祉マネジメント103人、情報福祉マネジメント96人、子ども教育は181人、保健看護71人、リハビリテーション学科の作業療法学専攻34人、同理学療法学専攻39人、医療経営管理72人、通信教育部の290人で、全体では1,538人が対象になった。

式に先立ち、卒業生に2つのプレゼントが贈られた。一つ目は思い出ビデオ。懐かしい場面に歓声が上がった。二つ目は吹奏楽部と混声合唱団が「花は咲く」を披露。大谷哲夫学長から学位記と卒業証書が代表者に手渡された。

続いて、管長賞と学長賞、特別賞、功労賞を受ける計19人の名前と2つの団体名が読み上げられ、代表して管長賞を受賞する医療経営管理学科の山岸樹矢さんに喜美候部謙史理事長から、学長賞は大谷学長から社会福祉学科の佐藤大平さんに賞状と記念品が授与された。

大谷学長は「皆さんは東日本大震災から約1年後に、東北福祉大学の門をくぐられました。悲しみの中からの一歩だったかもしれません。そこには、その時の皆さんの思いと、皆さんの背中を押してくれたたくさんの励ましに、今日あらためて、この言葉を伝えたいと思います。“こころから、ありがとう！”。人々の幸せのために、皆さん自身の幸せのために。明るい未来に向かって、しなやかに、そして強く。“心から、おめでとう！”」と、はなむけの言葉を贈った。

続いて、喜美候部理事長が曹洞宗管長の福山諦法猊下の祝辞を代読し、さらに「建学の精神を根底に、それぞれの道に邁進してください」と述べた。また、衆議院議員の小野寺五典客員教授が「議員になる前、本学の教員をしていたことを今でも誇りに思う。(皆さんは)後輩に道を示してください」とエールを送った。

卒業生総代の答辞は山岸さんが「4年前、東日本大震災から1年がたった2012年4月、私たちはこの福聚殿に立っていました。同じ場所のはずが、今は違った

見え方がしている気がします。4月からは新たなステージに進みます。これまでに感じた“想い”、“空間”、“感謝”を忘れず、この場所で学んだ誇りを胸に、精進していく所存であります。今日まで成長を見守ってくださった両親、皆さま方のご多幸と、本学のさらなる発展をお祈り申し上げます」と語った。

(4) 教育の質の保証

教務部としては本学の建学の精神および教育の理念に基づき、毎年教育課程の見直しつつ教育の質を保証することに努めてきた。平成27年度は以下の取り組みを主に行ってきた。

(ア) カリキュラムの見直し、充実

① 授業科目・内容の見直し、充実

平成27年度から学部学科が再編されたことに伴い、新しい教育課程及び教養教育の重視という方向性のなかで改訂した総合基礎教育課程をスタートさせた。その際、副専攻として「救急救命士課程」を設置し、総合福祉学部福祉行政学科、総合マネジメント学部、健康科学部医療経営管理学科の学生の受講を可能とした。

② 授業科目数の適正化

年度初めに授業科目に登録した受講者数が10名に満たない科目については、必修、選択の考慮をしたうえで閉講とするなど学生のニーズに合わせ授業科目数の適正化に努めた。

(イ) 教員組織の見直し、充実

① 専任教員の担当授業科目数の適正化

十分とはいえないが、専任教員の責任担当授業コマ数（原則6コマ<語学・実技系8コマ>）に従い担当科目を適合させた。また、非常勤講師が担っていた授業科目を、できる限り学内専任教員が担うことにより、できる限り非常勤講師への授業依存の適正化に努めている。

(ウ) GPA (Grade Point Average) の活用

履修規程において、総修得単位数または通算GPAが通年及び後期終了科目成績発表時に一定の基準に該当する場合、原則として、通年及び後期終了科目成績発表後1ヶ月以内と次年度の前期終了科目成績発表後1ヶ月以内に、アカデミックアドバイザー又はアカデミックサブアドバイザーの個別面談を受け、学修面談に関するリエゾンポートフォリオを記入しなければならないと定め、学修支援を実施しつつある。

(エ) FDの推進

教務関連のFDに関しては、「ICT&UNIPA教育活用」や「ティーチング・ポートフォリオ」などを全学的に実施した。また、各学科においても学科特有の課題に対して開催され、さらに、学科ごとに「高い授業評価を受けた教員によ

るFD」も実施した。

(オ) 教員評価/授業評価

昨年度までの学生による授業評価アンケートは、紙媒体1教員1科目(紙媒体)を対象としていたが、今年度より兼任講師を含む全教員、全科目を対象としてスマートフォンに対応したweb上(UNIVERSAL PASSPORT)でのアンケートを前、後期にそれぞれ実施した。授業評価回答期間終了後、授業の向上または改善の目標、数量評価および記述評価に対するコメントを記した「授業における向上・改善・開発の目標設定(PDCA)」を学生に公開をし、授業評価のフィードバックを行った。

(カ) 授業サポートの充実

今年度も、学生便覧(STUDENT HANDBOOK)をweb上にて公開したが、同時に特に重要箇所を別刷(学部ごと)として全学生に配布した。さらに、学生への修学支援の一環として、毎年、初年次教育科目(1年次必修)であるリエゾンゼミI(基礎演習)において主担任(教員)と副担任(教員や職員)を配置している。職員の副担任の配置は、SDも兼ねるものとして位置づけられている。

(キ) 実践実学リエゾン型学修ポートフォリオによる学修支援

理論と実践の融合を踏まえて自らの向上と人々の幸せへの貢献をめざすという本学の教育の特色を反映させた学修ポートフォリオ(本学が開発した学士力達成度評価を含む)が開発され、今年度もリエゾンゼミI(基礎演習)において全1年生が取り組んだ。これは、汎用的スキルの体験型学修と問題発見・解決型学修、態度・志向性の修得を重視し、4年間かけて積み上げていくものである。

また、教員に対しても「授業向上ポートフォリオ2015.xlsx」をUNIVERSAL PASSPORT内に置き、教育の質向上に資するシステムを導入した。

(ク) 長期履修学生支援

学生が就労、家事、育児、介護、地域貢献等の事情により標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し終了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める規定を整備し学則変更し施行に至った。

(5) 学生生活支援

学生生活支援課は、学生の学生生活支援及び学生指導等による学生生活の充実と学生の自立性・資質等の人間力の向上により、学生の成長を図ることを目的とした活動を展開しており、平成27年度については概ね目的を達成している状況である。事業の概要と実績は以下のとおりである。

(ア) 経済支援

① 授業料減免：経済的理由により、学業の継続が特に困難な学生に係る授

業料の減免を実施した。

- a. 東北福祉大学学費減免規程に基づき申請学生を審議・上申し減免を実施した。

【実績】6月10日、学生生活支援センター委員会を開催して申請学生6名について審議した結果、規程条件該当学生1名の上申を決定した。

- b. 東日本大震災被災者経済支援に基づく授業料減免を実施した。

【実績】6月10日、学生生活支援センター委員会を開催し、被災学生を選考した。(150名・減免額41,502,500円)

- ② 奨学金：東北福祉大学奨学金、日本学生支援機構、その他各種奨学金について、学生に案内のうえ審査・選考及び事務手続きを実施した。

【実績】東北福祉大学奨学金給付奨学生3名採用・貸与奨学生20名採用
日本学生支援機構奨学生(採用2,798名-前年比241名増)
三菱商事奨学金奨学生26名採用(給付)
江頭財団奨学生10名採用(給付)
その他自治体・財団等12団体66名採用

(イ) 課外活動支援

学生団体(大学指定8団体・体育会24団体・文化会37団体・同好会34団体・未公認団体多数)に対して、活動及び運営指導を行うとともに、貸出しを含めた施設提供、活動費支援や旅費助成のほか、研修会等の課外活動支援を実施した。また、課外活動への学生加入率90%を目指し、各種支援・指導等に取り組んだ。

- 【実績】○体育会系実績では全日本大会での優勝はなかったものの、ゴルフ部男子が国際大会に日本代表として出場し優勝した。

またゴルフ部男子以外にも空手部女子及び軟式野球部から日本代表として8名が選出され、国際大会に出場・活躍した。

- 大学祭「国見祭」入場者数6,154名(前年比2,951減)

- 体育会の主将・主務及び文化会の代表・副代表・会計に対する研修会を開催した。(体育会2月25日・文化会2月26日)

- 「学生の部活動旅費等助成規程」(体育会専用規程)に基づく体育会団体への旅費助成の他、規定準用により大学指定団体及び文化会団体の大会参加等の旅費について助成した。(4件)

- 硬式野球部の明治神宮大会東北大会及び全国大会に、学生応援団を組織して現地応援を行った。

- 学生団体加入率は89.37%と目標にわずかに届かなかったものの、過去4年間の平均参加率88.93%を上回った。

(ウ) 学生指導

学生の賞罰だけでなく、マナー・モラルの一般常識を含めた人間的成長及び学内秩序の維持を目的として、各種学生指導を実施した。

① 巡回及び学内情報システム掲示等によるマナー・モラル指導

② 各種大学行事を通じた人間的成長指導

【実績】学内懸賞論文・東北福祉大学川柳・年金相談会等

③ 危機管理指導

【実績】○ゴールデンウィーク・夏季・冬季休業における各種事件・事故防止指導

○不審者対策の注意喚起・防犯指導及び防犯ブザーの貸出し

○インターネット・SNS 問題を受けたガイドライン周知の広報及び危険性と適切利用指導

○学生被害事案及び被害可能性のある事案の注意喚起・防犯指導

④ 学生表彰

学業及び課外活動等において、優秀な成績を修めた学生、または学生団体に対する学長賞等表彰を実施した。

【実績】○学生生活支援センター委員会・体育会部長会議・文化会部長会議において、学長賞上申を審議し卒業式（3月18日）で表彰した。

○学内懸賞論文・大学川柳において優秀賞等表彰した。

(エ) その他学生支援

① 学生総合保険等（F ショップ連携）

【実績】○学生総合保険傷害・賠償適用（139件・7,880,368円）

○スポーツ傷害保険（30件受付・397,000円）

② 健康管理（保健室連携）

学生の心身の健康管理を目的に各種取組みを推進するとともに、平成28年度学生健診の受診率94.0%を目標に広報活動等を意欲的かつ計画的に展開した。

【実績】○学生健診について、前年比増であったものの目標には届かなかった。（5,108名・全学生比93.1%-前年比11名増・1.3%増）

○学校保健法に基づく出席停止措置等対応（罹患学生48名）

○体調不良学生及び急病人対応（39名）

○心身の健康管理指導

③ 学生相談（ウェルネス支援室連携）

ウェルネス支援室では、同一学生の頻回来談による延べ相談件数の増加に対して、早期発見・対応により平成28年度末で前年度比マイナス5%を目標に取り組んでいる。また、学生生活支援課では各種相談への総括的対応を実施し、学生生活の充実を図っている。

【実績】○各種事件被害申告のほか、事件関連相談及びその他学生生活に係

る相談に対する対応・処置等の指導(約 100 件)

○ウェルネス支援室における相談は、前年比 62 件減・8.1%減であり目標を達成した。(706 件)

④ 生活習慣指導・健康管理

平成 26 年度から生活習慣及び健康管理を目的として 100 円朝定食を導入、学生及び保護者からの評価も高く、平成 27 年度も継続実施した。

【実績】○100 円朝定食を 150 日実施し、26,721 食提供した。(1 日平均 178 食・前年比 7,104 食増・136.2%)

(オ) 指導教職員の技術・能力の向上及び育成

学生支援・指導を担当する学生生活支援センター所属教職員について、目まぐるしく変化する「学生を取巻く現状」に適時・適切に対応するため、各種研修会への参加によって個々の技術・能力の向上及び育成を図った。

【実績】○学生部関係研修会 4 会合 8 名

○日本生支援機構奨学金関係研修会 6 会合 7 名

○保健室関係研修会 6 会合 6 名

○ウェルネス支援室関係研修会 5 会合 5 名 等

(6) 防災士養成

(ア) 防災士養成研修講座の開講

概要 東北福祉大学では、東日本大震災の教訓から実践を踏まえ、防災知識を身につけた人材育成が地域や職域における災害への備えを担い、安心・安全な社会づくりが必要であるとの考えから、公共性の高い日本防災士機構認証の防災士養成研修を行っている。今年度は福祉やボランティアなどの大学の特色を活かした「東北福祉大学防災士育成研修講座」を学内外合わせ 12 回開講した。平成 24 年度から防災士研修で養成した資格取得者総数は今年度末に 3,264 名に達した。すでに来年度、実施予定の自治体から開講要請も届いており、東北の防災リーダー養成機関として各自治体と連携した防災人材育成を行うことにより、次の大規模自然災害に対応できる環境を整備したい。

平成 27 年度開講数・資格取得者数	開講数 12 回	資格取得者総数 1004 名
会 場	実 施 日	資格取得者数
東北福祉大学ステーションキャンパス	6 月 13～14 日	134 名
福島県いわき市 いわき市文化センター	6 月 27～28 日	94 名
茨城県高萩市 高萩市役所	8 月 4～5 日	50 名
東北福祉大学国見キャンパス地域減災論	9 月 3～5 日	54 名
東北福祉大学国見キャンパス	10 月 3～4 日	114 名
岩手県釜石市岩手大学三陸復興支援機構	10 月 26～27 日	47 名
山形県県庁舎 2 階講堂	10 月 31 日・11 月 1 日	103 名
宮城県角田市 角田市役所	12 月 12～13 日	53 名

宮城県石巻市 遊楽館大会議室	12月9～20日	74名
岩手県宮古市 宮古市役所6階ホール	2月6～7日	96名
岩手県釜石市 釜石市役所	2月20～21日	52名
東北福祉大学国見キャンパス	3月5～6日	134名

(イ) 普通救急救命講習の開講

概要 防災士研修カリキュラムでは、消防署等が実施する「救急救命講習」を受講し、応急手当の技術等について習得するよう定められている。防災士研修室では仙台市消防局の協力を得て応急手当と心肺蘇生法、AEDの使用法を含む普通救急救命講習を学生、教職員を対象に9回開講した。

平成27年度開講数・受講者数	開講数 9回	受講者数 288名
会 場	実 施 日	資格取得者数
東北福祉大学ステーションキャンパス	5月18日 2回	106名
東北福祉大学ステーションキャンパス	5月25日 1回	19名
東北福祉大学ステーションキャンパス	9月7日 1回	50名
東北福祉大学ステーションキャンパス	9月8日 2回	48名
東北福祉大学ステーションキャンパス	12月1日 2回	53名
東北福祉大学ステーションキャンパス	12月2日 1回	12名

※本学の応急手当普及員 18名

(ウ) 防災士スキルアップ研修の実施

概要 東北福祉大学防災士養成研修講座を受講し資格を取得した山形県、宮古市の社会人防災士、学生を対象に「防災士スキルアップ研修」を実施した。研修会には約290名が参加し、防災士として必要な応急手当処置法や災害図上訓練(DIG)などの3種類の実践的なプログラム内容で技術研鑽を行った。

会 場	実 施 日	受講者数
仙台駅東口キャンパス	7月4日	60名
山形県山静寿多目的ホール	12月5日・6日	述べ50名
岩手県宮古市 市役所分庁舎	2月6日・7日	述べ130名
仙台駅東口キャンパス	2月13日	50名

(エ) 防災士研修講座及びに防災士活動に関する広報活動等

概要 東北福祉大学防災士養成研修講座で資格を取得した学生防災士の活動について下記のとおり地域や学校等と連携した防災訓練、防災教育活動を実施した。(参加防災士学生 延べ600名)

- 4月30日 第3回国連防災世界会議報告会(ステーションキャンパス)
- 5月16日 外国人市民のための防災教室(ステーションキャンパス)
- 6月12日 青陵中等教育学校防災教室指導(青陵中等教育学校中高生700名対象)
- 6月12日 仙台市総合防災訓練(仙台市泉区 住吉台小学校)
- 6月27日 木町通小・仙台二中避難所開設・運営訓練
- 7月18日 仙台市泉区高森市民センター避難所ワークショップ支援(高森市)

民センター)

- 8月11日 東京ビッグサイトで防災イベントに参加、防災教室とパネル展示等を実施
- 8月29日 防災情報発信講座(国見小学校 学生防災士13名参加)
- 9月1日 大塚製薬防災セミナー(大塚製薬仙台支店 アゼリアホール110名対象)
- 9月1日 仙台駅帰宅困難者避難誘導訓練に参加
- 9月13日 中山学区総合防災訓練に参加
- 9月15日 避難訓練コンサート(エレクトロンホール宮城)に参加
- 9月26日 ライオンズ定禅寺タワーマンション防災訓練
- 9月30日 東北福祉大学防災訓練 救命、炊出し、濃煙体験等に防災士学生が協力
- 9月30日 仙台市立鶴谷中学校防災教室 出前授業を担当
- 10月3日 防災情報発信講座(貝ヶ森市民センター、避難所運営訓練)
- 10月10日 八幡地区町内会防災訓練(八幡小学校 学生防災士12名参加)
- 10月10日 角田市総合防災訓練に協力(学生防災士5名参加)
- 10月21日 第7回くにみ街道まつり 濃煙・消火器体験等を実施
- 10月24日 国見祭に参加(10月25日も)
- 11月8日 田子西地区避難訓練(田子西地区)
- 11月21日 防災情報発信講座(仙台第一中学校 HUG 避難所運営)
- 11月27日 自衛隊多賀城駐屯地見学(多賀城市)
- 12月5日 済生会スキルアップ研修会の運営を担当(山形県介護職員防災士対象12月6日も)
- 12月13日 第17回西公園キャンドルライトファンタジー ブース出展及び活動
- レギュラーラジオ番組の企画・制作(毎月第一水曜11:10から仙台市内コミュニティFM3局から同時放送)
- 定例活動報告会および活動事前打合せ会(毎週水曜17:50から開催)

(7) ボランティア支援

(ア) コーディネート業務(平成28年3月31日現在)

地域社会との連携・協働により、ボランティア活動依頼件数及び窓口利用による活動者数は昨年度より上回り、ボランティアへの意識が年々向上している。また、平日の講義がある時間帯の依頼も増加傾向にあり、スケジュールの多忙等の理由によりマッチング率の減少も見受けられた(平成26年度79%→平成27年度77%)。目標でもある「現代的課題」「創造的な行動」に関しては、各種実行委員等に参加する学生が多く、達成傾向にある。

【総数】 ボランティア依頼件数：307件(昨年度303件)、
活動者数：2,203名(昨年度2,197名)

(イ) 各種カリキュラムの開講

各種カリキュラムは建学の精神「行学一如」の理念に則り、学生のボランティア教育及び現代社会の課題解決能力（ニーズ）の向上に関し、本学教員以外に、行政・社会福祉協議会・NPO等と連携協約を基にホムバスで講師としてお呼びし、講義を実施している（TKK3 大学学生も含む）。

○福祉ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの開講（通年・1単位）

単位履修者：270名、（必修講義平成27年5月23日（土）5限、平成27年8月9日（日）2限

○「ボランティア活動論」の開講（2単位）（特講：前期一月曜6限）

単位履修者：64名（単位取得者53名）

○「地域減災論Ⅰ」の開講（2単位）（前期集中）

単位履修者：169名（単位取得者143名）

○「地域減災論Ⅱ」の開講（2単位）（後期-火曜2限）

単位履修者：15名（単位取得者13名）

○「社会貢献学入門」の開講（2単位）（前期-土曜3限）

単位履修者：233名（単位取得者203名）

○「環境ボランティア論」の開講（2単位）（後期集中）

単位履修者：83名（単位取得者63名）

（ウ）TKK3 大学連携について

TKK3 大学連携プロジェクトとは、東北福祉大、工学院大、神戸学院大のそれぞれの特色や強みを生かしながら、文系と理系の融合を図り「社会貢献」に関する研究・教育を行い社会に貢献することを目的としたプロジェクト（平成24年～30年度）。遠隔講義システムを使用した3拠点同時中継で連携科目を3大学で受配信し、「社会貢献活動支援士」の資格取得を目指した教育プログラムを展開している。

【社会貢献活動支援士コース】

取得希望者数：99名、科目数（本学・神戸学院大・工学院大も含む）：24科目

第5回資格認定試験：平成28年2月11日 合格者数：15名

【TKK 関連事業】

○TKK3 大学合同 仙台市被災地域支援ボランティアの実施

活動日：平成27年9月6日 参加者：21名

○神戸学院大学主催 宮城と神戸の大学生が交流する「神戸招へいプログラム」

開催：平成27年10月10日～12日 参加者：本学2名

○工学院大学 地震防災訓練への参加

実施：平成27年11月26日 参加者：本学4名

○神戸学院大学・社会貢献学会共催 第7回防災・社会貢献ディベート大会へ参加

論題：『わが国は、災害危険区域内を非住宅地域として指定するべきである』

開催：平成 28 年 2 月 13 日

結果：本学から 2 組 5 名が出場し、1 組が優勝し、1 組が敢闘賞、優勝組より 1 名がベストディベーター賞をいただき優秀な成績をおさめた。

○国交省・東京都 防災教育施設『そなエリア東京』春の防災教育イベントにて本学ポスター出展及び現地 TKK ワークショップ及び上野学園大学連携コンサートの開催

・ポスターブースを出展：平成 28 年 3 月 1 日～21 日

・現地ワークショップ及びコンサートの開催：平成 28 年 3 月 12 日～13 日

(エ) 災害復興支援ボランティアについて

本学の避難所を閉鎖後、学生は自宅待機となったが、「東北福祉大学ボランティア会」を設置し、各地で災害ボランティア活動を実施及び事前説明会を実施している。また、本年度はネパール大地震義援金募金活動や関東東北豪雨水害では、栗原市社会福祉協議会と連携し、被災者支援活動にあたった。他大学連携の一環で音楽大学である上野学園大学と連携し、被災地における復興応援コンサートを実施した。

○活動登録者 422 名（昨年度 701 名）、79 活動（16 市町村）、

震災時より延べ 5,950 名（昨年度 5,536 名）（平成 28 年 3 月 31 日現在）

○ネパール大地震義援金募金を集め、329,038 円を日本赤十字社経由で現地に送った。

○関東東北豪雨水害ボランティア

期間：平成 27 年 9 月 14 日～20 日、活動者：学生延べ 30 名、教職員延べ 14 名

○上野学園大学連携事業

日時：平成 27 年 10 月 10 日～12 日

活動場所：石巻市大橋仮設団地、石巻市災害公営住宅、東北福祉大学 6 号館

参加学生：上野学園大学 6 名、本学サークル「ふぁみりあ」25 名、

本学アカペラサークル「MUSICOM」11 名、教職員指導者：5 名

(オ) 減災・防災教育事業の実施

茨城県高萩市や栃木県さくら市で協約に基づいた防災教育を実施。また、社会福祉協議会及び行政と連携し、宮城県各所においても子どもや地域向けに本学オリジナルの減災・防災教育のプログラム（クイズ・カルタ・スゴロク・体操、震災ボランティア報告等）を用いて開催している。

子ども達と体育館に宿泊し、防災に関する体験実習や避難所体験等を実施。

○高萩市連携事業「萩っこ防災教室」

日時：平成 27 年 8 月 29～30 日、場所：茨城県高萩市松岡小学校、活動者：17 名

○栃木県さくら市「減災運動会」の実施

日時：平成 27 年 11 月 23～24 日、場所：栃木県さくら市立氏家小学校、活動者：21 名

○減災・防災教育事業の実施（9 か所）

大崎市岩出山地域、名取市不二ヶ丘小学校、仙台市若林区消防署、栗原市立高清水小学校、松島町立松島中学校、仙台市立貝森小学校・栗生小学校・実沢小学校・鶴ヶ谷中学校、仙台市福住町防災訓練、等

(カ) 社会貢献学会の運営

社会貢献学会は、社会貢献学の研究の向上と発展につとめ、研究に基づいて教育や普及活動を実践し、市民とともに活動することでその成果を社会へ還元することを目的としている。また、社会貢献、防災・減災、ボランティア、福祉、環境等の知識やスキル、ネットワークを活かせるための環境づくりの場として学会の開催を行った。

テーマ：第6回社会貢献学会「今、私たちにできる社会貢献」

日時：平成27年8月9日 場所：本学国見キャンパス

(キ) 平成27年度 ほくとう総研地域活性化連携支援事業

北海道・東北地域における備蓄品、非常食(災害職)の備蓄状況、活用方法等を調査し、地域ならではの利用方法(特産品の活用)から平常時と遜色のない非常食の研究・開発を行い、そのノウハウを他の地域にも拡大を図った。第6回社会貢献学会において、「災害食レシピコンクール」を開催し、参加者から意見を頂戴し、レシピ集の発行を行った。

1. 申請事業名 『防災力は地域力 ～地域力向上の取り組み～』、
2. 助成金額 1,000,000円 3. 災害食レシピコンクール開催(参加6団体)、
4. 災害食レシピ集発行1,000部

(ク) 視察調査受入・出前講座・ブース出展・外部委員会・各協働事業・学生ボランティアとの協働

本学のボランティア活動や災害救援ボランティア、減災防災教育等について視察調査受け入れを行っている。また、地域ニーズにあわせた出前講座や各種委員として参加し、地域との連携を図っている。

○「もったいない運動 リユース市」について

日時：平成27年4月22日12:00～16:00 場所：けやきホール1階ロビー

○「東北楽天ゴールデンイーグルス」チャリティーシート

招待施設：57施設 ※毎試合10席(招待施設8席、学生ボランティア2席)

○視察調査受け入れ：4団体(慶應義塾大学、(株)学生情報センター、東京家政大学、栃木県塩谷町社会福祉協議会)

○出前講座：9講演(本学内、仙台市荒町市民センター、仙台市若林市民センター、仙台市若林消防署、仙台市立病院、仙台市障害者スポーツ協会 等)

○外部委員会：7委員会(FEEL SENDAI、みやぎ防災・円卓会議、杜の都の市民環境教育学習推進会議、宮城県沖地震対策研究協議会 等)

○学生ボランティアとの協働(サークル顧問)

- ・救命サークル「FAST」
- ・地域安心安全ボランティア「Team ZERO」
- ・学生サークル「ふぁみりあ」
- ・学生サークル「PASS」
- ・学生サークル「ストリートチルドレン芸術祭」

(8) 実学臨床教育推進

実学臨床教育推進室は、大学関連施設および学外施設等で実践に取り組む学生の学びおよび実習に関する指導・助言等を行っている。原則、水曜日6限の時間帯にて実学生を対象とした、全体講義等を実施している。事業の概要と実績は以下の通りである。

(ア) 実学1年次関連事業

①オリエンテーションと学生相互のピアサポート

時間割作成、実習施設の説明・選定、施設職員との顔合わせ、大学教員との顔合わせ、先輩方との交流など、年度初めに実学生の交流を図った。

【実績】実施日：4月6日、22日、17日、5月8日、15日、22日、29日

参加者数：1年生41名（合同時は2年41名、3年25名、4年26名が一緒）

②個人面談（受講希望者全員・受講生全員）

実学受講希望者を対象に、受講意志の最終確認を含めて個人面談を行った。後期は、継続確認の面談を行った。

【実績】実施日：4月7日～20日、2月8日～18日

参加者数：受講希望者65名、受講生39名

③実学全体講義：実学について（全学年）

「実学臨床教育とは」～施設側より～と題し、改めて実学臨床教育の意義・目的・背景等を全学年で学ぶことが出来た。

【実績】実施日：9月16日、参加者数：1年生～4年生 120名

④学年全体講義

年間隔週水曜日6限目に学年全体講義を計画し、実学臨床教育に関しての様々な課題等に取り組んだ。

【実績】実施日：5月20日、6月3日、24日、7月1日、8日、15日、9月30日、11月4日、18日、12月16日、1月6日、13日、参加者数：39名

⑤1年次実践報告会

全学年と担当教員更には実習施設職員が出席し、実習で得られた気づきや学びを発表。次学年に繋げられるテーマを持って今後に取り組んだ。

【実績】実施日：10月14日、21日、3月8日、参加者数：延べ350名

(イ) 実学2年次関連事業

①オリエンテーション

2年目に取り組む内容や、マンネリ化を感じる学生が多い。目的意識を明確にする必要があるため、学生間で現在の取り組みを話し合った。個人の実学臨

床教育に対する考えを話すことで、共感することや新たな捉え方をしていた。

【実績】実施日：4月8日、参加者数：34名

②個人面談

今後の取り組みに関して、また3年次以降の学ぶ意欲の向上や実習や学びに対する個人の不安の解消につなげることを目的とした面談を行った。

【実績】実施日：4月7日～20日、2月8日～18日、参加者数：34名

③学年全体講義

年間隔週水曜日6限目に学年全体講義を計画した。実学臨床教育が一つの講義であること、資格実習や他講義と同様の気持ちで学ぶよう再度確認した。また社会福祉および教育施設・機関の理解を深め、次年度以降の実習につなげる学習等様々な内容で実施した。

【実績】実施日：4月8日、22日、5月13日、27日、6月10日、17日、7月8日、9月30日、10月7日、10月28日、11月11日、12月2日、9日、1月6日、20日、参加者数：34名

④2年次実践研究報告会

生活支援を実施したプロセス、利用者の変容、プロセスから得た気づき・学びについて整理し、実践施設において報告を行った。（※各施設担当教員が施設を訪問し報告会を実施）

【実績】実施日：10月26日～30日、2月29日～3月4日、参加者数：34名

(ウ) 実学3、4年次関連事業

①オリエンテーション（3年生）

個人で学びを進めるため、学びの進め方について説明や確認。毎月の実習プロセスを担当教員へ提出し指導をいただくこと、指導をいただいた後の個人指導記録の作成についても説明を加えた。

【実績】実施日：4月15日、参加者数：22名

②オリエンテーション（4年生）

実学論文の作成や提出までの年間スケジュールを説明した。

【実績】実施日：4月15日、参加者数：25名

③ピアサポート（3、4年生合同）

3、4年生合同の機会を設けた。それぞれの実習内容や学び、他大学全般についての情報交換をおこなった。仲間の取組みを聞くことで意欲を高めていた。

【実績】実施日：6月24日、参加者数：47名

④ピアサポート（3、4年生合同）

4年生はこれまでの実習や学び、就職活動など大学全般について3年生へ助言をした。高齢者・障害児者・児童・学校教育・地域の5つにグループ化し、関心あるグループで話を聞いた。実習先での取組みは異なるが、仲

間の取組みを聞くことで刺激を受けていた。

【実績】実施日：9月30日、参加者数：47名

⑤3年生実践研究報告会

個別的に実践活動に取り組んだ内容や学びについて、ポスター発表形式で報告会を行う。【実績】実施日：2月13日、参加者数：125名

⑥4年次実践研究報告会

4年生が執筆した実学論文を発表。4年間の集大成の場であり学生最後の学びの場である。実学生全員と実践場所の所属長、関係する教員等が参加する。

【実績】実施日：2月13日、参加者数：135名

⑦実学臨床教育修了式（4年生）

4年間実学を受講した学生の継続的な学びと実践について「実学臨床教育修了證書」を授与する。大学担当教員、関連施設職員、卒業生、在学生が出席する。【実績】実施日：3月18日、参加者数：83名

(9) ICT活用推進

(ア) システム管理・運用

学内で利用されている以下のシステムについて管理・運用支援を実施した。

- ・総合事務システム（GAKUEN）
※内包するシステム…教務、キャリア、同窓会など
- ・学内ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）
- ・人事給与システム（ZEEM）
- ・勤怠システム（ZAION）
- ・メールシステム（GoogleApps）

(イ) 資産管理システム構築 ※予定

情報漏洩等のリスク対策として、平成28年度より職員が利用する事務用PCにおいて「情報資産管理システム」を運用することとなった。本事業においては主に資産管理ソフト（SKYSEA）の導入と認証基盤（Active Directory）の構築を実施し、28年4月からの運用開始に備える。

(ウ) 学生証のICカード化に伴う運用

本学図書館において、平成27年度より全学生・教職員証がICカード化されたことに対応し、従来の磁気カード読み取り方式からICカード読み取り方式の入館ポストに変更するとともに、WindowsXP版からWindows7版の入退館システムにバージョンアップし、脆弱性の回避を行った。

(エ) 図書館システムのバージョンアップ

旧図書館システムは、運用開始から7年が経過し、サーバーの老朽化、検索時のレスポンスの低下が目立ってきていた。これらのことから平成27年8月に図書館システムをバージョンアップした。このシステムは、スマ

- ートフォン対応 OPAC、MyOPAC からのシングルサインオンによる貸出予約状況紹介、文献複写・貸借申込、図書購入申込などのサービスと電子資料利用が可能になるなどの機能を備えており、更なる情報提供が可能となった。
- (オ) UNIVERSAL PASSPORT 用各種装置、及び勤怠システム用サーバーのリプレース
上記ハードウェアの保守契約満了に伴い、新しい機器にリプレースを行った。
- (カ) 卒業生卒業データの移行 (※作業は 27 年度 6 月まで継続予定)
21 年度に行われた旧システムから総合事務システム (GAKUEN) へのシステムリプレースにおいて、まだ完了していなかった 21 年度以前の卒業生成績データの GAKUEN システムへの移行を行った。
- (キ) 仙台駅東口キャンパス ネットワーク整備
仙台駅東口キャンパスについて、部署の引っ越しに伴い建物内配線の工事を実施した。(1 階総務課、3 階通信教育事務部)
- (ク) TFU リエゾンドリルの導入支援
入学予定者、新入生へのリメディアル教育の一環として、教務部で導入を決定した「TFU リエゾンドリル」の導入支援を行った。28 年度入学予定者向けに昨年 12 月から既に実施されており、また、28 年度より新入生にも実施される予定となっている。
- (ケ) GAKUEN EduTrack の導入支援
e-ラーニング等の ICT を活用した様々な方法で教育を提供し、学生の多様な学修ニーズに対応することを目的とし、IR センター教育情報分析室が中心となり文科省の補助事業により導入する、ラーニングマネジメントシステム (LMS)、「GAKUEN EduTrack」の導入支援を行った。27 年 3 月よりテスト運用が開始され、27 年 4 月より本格運用が開始される予定となっている。
- (コ) 学生向け貸与 PC 関連事業
- ①PC 貸与管理
- ・ 入学生 PC 貸与
平成 27 年 4 月 3 日、編入生 7 名を含む 1,432 名へ貸与を実施。
 - ・ 卒業生ソフトウェアライセンス譲渡・返却手続き
平成 27 年 11 月 30 日～12 月 3 日、対象 1,270 名中 993 名完了。(平成 28 年 3 月 31 日現在 1,188 名完了)
 - ・ 次年度 PC 貸与準備
学内システムのマニュアルの企画・原稿作成。
- ②PC 故障対応・活用サポート
- ・ 新入生向け特設 PC サポート窓口
平成 27 年 4 月 3 日～15 日(10 日間)、のべ約 1,384 名対応(前年比 453.8%)。入学式当日、引き渡し会場でのサポート実施により大幅増。

- ・メーカー修理
316 件(前年比 91.1%)…ディスプレイ割れ、および水分混入が減少 84 件(前年比 73.7%)。
- ・情報センター修理
916 件(前年比 101.8%)…ウイルス対応は減少 77 件(前年比 66.4%)。ソフトウェア不具合の対応が大幅増 136 件(前年比 289.4%)。平成 27 年度から変更したブートマネージャーに起因する不具合が増加した。
- ・設定・使用法指導
842 件(前年比 225.1%)…空き容量不足に関する指導が大幅増 596 件(前年比 977%)。空き容量不足の原因は、Windows システムの肥大化が 6 割強、iPhone バックアップデータが 5 割強。ウェブメール使用方法の指導が大幅減 36 件(前年比 30.8%)。

③印刷室運用

- ・ブース利用 : 10,491 件(前年比 82%)
- ・大量印刷 : 973 件(前年比 97.9%)
- ・大判印刷 : 424 件(前年比 106.5%)、データ作成 139 件(前年比 95.9%)
- ・大判印刷プリンター(ハード・ソフト)更新の検討を実施。
- ・大判印刷の運用上の課題を抽出し、改善案の検討を実施。

④教職員対応

- ・サポート対応 : 178 件(前年比 847.6%)…組織統合により、窓口での教職員対応が大幅増。

⑤その他

- ・PC 講習会 : 情報センターにて個別サポート形式で実施。(外付け HDD 活用 4 回、Office 再インストール 130 回、Mac OS アップグレード 4 回)
- ・PC 斡旋販売 : 21 件。通信教育部学生、東北福祉看護学校学生、教職員を対象に一部業務を実施。(申込み受け、PC セットアップ、発送手配、サポート)
- ・CALL 教室 : 授業サポート 8 件、障害対応 31 件。

(10) 福祉実習履修学生への支援

福祉実習支援室では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭、レクリエーションインストラクター、介護職員初任者研修課程修了等の資格および免許状取得のための支援を行っている。また、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験に対する合格を目指す学生のために、4 年生を対象とした受験対策講座も開設している。各資格および免許状取得のための支援の実施状況は以下の通りである。

(ア) 社会福祉士

- ①履修学生数 (H28. 2. 4 現在) ※対象 : 総合福祉学部及び総合マネジメント学部

社会福祉援助技術演習Ⅰ ※主に2年生：208名
社会福祉援助技術演習Ⅱ・社会福祉援助技術実習指導Ⅰ※主に3年生：178名
社会福祉援助技術演習Ⅲ・社会福祉援助技術実習指導Ⅱ・社会福祉援助技術実習 ※主に4年生：180名

②実習状況および概要

a. 夏季体験学習（社会福祉援助技術実習指導Ⅰ）

実習期間：平成27年8月5日～9月9日のうち4日間

※一部の学生は10月末まで

実施学生数：178名、学習先箇所数：195ヶ所

b. 社会福祉援助技術実習（社会福祉援助技術実習指導Ⅱ）

実施期間：第一期 平成27年5月25日～6月25日

第二期 平成27年6月29日～7月31日

※一部の学生は9月末まで

実施日数：24日間、実施学生数：180名、実施箇所数：100ヶ所

※実習に向けた全体講義・クラス別講義・ガイダンス・実習報告会等を実施

③その他

a. 実習連絡会の開催（年2回）

内容：実習前には大学として実習の依頼を、実習後には実習受入の御礼を報告。実習先と大学間で実習指導の情報交換。

(イ) 精神保健福祉士

①履修学生数 ※対象：総合福祉学部

精神保健福祉援助演習Ⅰ 2年生：32名

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・精神保健福祉援助実習Ⅰ 3年生：27名

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ・精神保健福祉援助実習Ⅱ 4年生：29名

②実習状況および概要

a. 精神保健福祉援助実習Ⅰ

実習期間：平成27年8月5日～9月30日に30時間

実施学生数：33名、実習先箇所数：17ヶ所

b. 精神保健福祉援助実習Ⅱ

実施期間：平成27年5月11日～10月1日

実施日数：12～25日間（実習時間数によって異なる）、

実施学生数：29名、実施箇所数：24ヶ所

※実習に向けた全体講義・クラス別講義・ガイダンス・実習報告会等を実施

③その他

a. 実習連絡会の開催（年2回）

内容：実習前には大学として実習の依頼を、実習後には実習受入の御礼

を報告。実習先と大学間で実習指導の情報交換。

(ウ) 保育士

①実習状況、履修学生数

※総合福祉学部社会福祉学科・子ども科学部子ども教育学科3年次実施

a. 保育実習Ⅰ（施設）

実習期間：平成27年6月22日～7月3日

実習生：宮城県内77名37ヶ所、宮城県外58名31ヶ所、計135名68ヶ所

b. 保育実習Ⅰ（保育所）

実習期間：平成27年8月17日～8月28日

実習生：宮城県内61名47ヶ所、宮城県外74名68ヶ所、計135名115ヶ所

c. 保育実習Ⅱ

実習期間：平成27年8月31日～9月11日

実習生：宮城県内61名47ヶ所、宮城県外74名68ヶ所、計135名115ヶ所

②その他

a. 保育実習指導Ⅰ（総合福祉学部社会福祉学科・子ども科学部子ども教育学科2年生対象）

保育サマーセミナー・マナー講座・保育キャリア形成・保育実技研究・リエゾンゼミⅡ合同研究発表会を実施。

b. 保育実習指導Ⅱ（総合福祉学部社会福祉学科及び子ども科学部子ども教育学科3年生対象）

マナー講座・保育実践演習前期合同発表会・保育キャリア形成・保育所実習報告会・施設実習報告会・保育実践演習後期合同発表会を実施。

(エ) 幼稚園教諭

①幼稚園教育実習の実習状況

※総合福祉学部社会福祉学科・子ども科学部子ども教育学科4年生対象

前期：6月～9月の間4週間実施、実習生：宮城県内5名4ヶ所、宮城県外50名48ヶ所、計55名52ヶ所

後期：平成27年10月5日～11月2日、実習生：宮城県内58名51ヶ所

②幼稚園教育実習の事前・事後指導

※総合福祉学部社会福祉学科・子ども科学部子ども教育学科4年生対象
教職キャリア形成・実技発表会・前期活動状況プレゼンテーション・前期幼稚園実習合同発表会・後期活動状況プレゼンテーション・後期幼稚園実習合同発表会

(オ) 介護福祉士

①実習状況

a. 介護実習第Ⅰ段階（2クール）（第Ⅰ段階合計：37名、8施設）

平成 27 年 6 月 5 日～6 月 18 日 2 年生 18 名

平成 27 年 6 月 19 日～7 月 2 日 2 年生 19 名

b. 介護実習第Ⅱ段階 1

平成 27 年 8 月 5 日～9 月 1 日 12 施設、3 年生 31 名、

c. 介護実習第Ⅱ段階 2 :

平成 28 年 2 月 25 日～3 月 23 日 10 施設、3 年生 30 名

d. 介護実習（居宅実習）

平成 27 年 8 月、5 事業所、2 年 37 名

②その他

a. 宮城県介護福祉士養成施設協会事務局担当校

期間 平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日（2 年間）

b. 介護技術講習会の実施

(カ) レクリエーションインストラクター

①履修状況

3 年生 8 名（うち 2 名は通信教育部で単位互換を行ったが 1 名は辞退のため 7 名の申請となった）

4 年生 6 名 ・通信教育部 2 名 （資格申請者合計 15 名）

(キ) 介護職員初任者研修課程

①履修・実習状況 3 年生 18 名

実習期間：平成 27 年 11 月 9 日～30 日までの期間で 1 人あたり 2 日間

※施設実習 1 日間、在宅実習 1 日間 実習先：計 6 ヶ所

②その他

a. ガイダンス（1～3 年生対象履修希望者）、特講（介護実践の理論と実際）の実施

(11) 教職課程履修学生への支援

教職課程支援室は、教職課程を履修する学生がその目的を達成できるように、指導・支援を行う。平成 27 年度は、教育実習、介護等体験、介護実習、看護学臨床実習、教員免許、教員採用試験、その他の教職に関わること（東北地区私立大学教職課程連絡研究協議会事務局に関わること、仙台地区教育実習連絡協議会事務局に関わること、）等の事業を行った。

①教育実習等に関わる事業

a. 校種：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭

b. 内容：教育実習等登録ガイダンス、教育実習ガイダンス、介護等体験ガイダンス、看護学臨床実習ガイダンス、教育実習事前指導・事前事後指導、養護実習事前指導・事前事後指導、障害者教育実習事前指導・事前事後指導、看護学臨床実習事前指導・事後指導

c. 教育実習等巡回指導：巡回指導説明会、巡回指導報告会

②教員免許に関わる事業

教員免許取得ガイダンス、教員免許取得者調査・確認、
教員免許一括申請

③教員採用試験に関わる事業

教員採用試験ガイダンス、教育委員会による教員採用試験説明会（神奈川県、千葉県他 7 県 3 政令都市教育委員会）、教員採用試験 1 次試験会場（国見キャンパス、ステーションキャンパス）（神奈川県、埼玉県、栃木県）、教員採用試験模擬試験、教員採用試験大学推薦学内選考、教員採用試験 1 次、2 次対策講座、教員採用試験対策講座（外部講師）、教員採用試験合格者体験発表会

④その他

- ・東北地区私立大学教職課程連絡研究協議会事務局
（東北地区総会・春季大会、全国私立大学教職課程連絡協議会総会、東北地区秋季大会 他）
- ・仙台地区教育実習連絡協議会

(12) 障がい学生への支援

障がい学生支援室は、本学の建学の精神「行学一如」教育の理念「自利・利他円満」のもとに、障がいのある学生も障がいのない学生と平等に学び、卒業後の自立に向けた支援を行うことを目的に活動している。事業の概要と実績は以下のとおりである。

(ア) 学生教育事業

① 障がい学生教育

障がいのある学生が自身の障がいを認識し、社会生活を営む上で必要な力を養うことができるよう、個々の障がい状況に応じた支援を行った。

<2015 年度障がい学生数（身体）>

通学課程 11 名（肢体不自由 4 名、視覚 1 名、聴覚 5 名、重複 1 名）

通信課程 28 名（肢体不自由 20 名、視覚 1 名、聴覚 7 名）

【実績】

- ・障がい学生との面談、意見交換（5/7, 9/9, 3/7, 11）
- ・学年ごとガイダンス 1 年（12/9） 2 年（11/30） 3 年（2/25）
- ・障がい学生向けインターンシップを実施（2 名受講）

以下 2 事業所で実習

「株式会社データウェイ・システムズ」（8/5～18）

「株式会社ジェー・シー・アイ」（8/17～21）

② 支援学生教育

障がいへの理解を深め、障がい学生へのサポート活動をする上での必要な知識、技術や一般常識、マナーを養成。

<2015年度サポーター登録者数(のべ)>

ノートテイク73名, 肢体不自由サポーター30名, 視覚障がいサポーター21名

【実績】※同日2回実施もあり

- ・ノートテイク講習会 14回 (4/15, 16, 23, 24, 5/28, 30, 6/2, 5, 9, 10, 7/1, 11/5)
- ・パソコンノートテイク講習会 7回 (4/27, 30, 5/7, 11, 14, 7/13)
- ・肢体不自由サポート講習会 6回 (4/22, 29, 6/1, 3, 12, 11/10)
- ・視覚障がいサポート講習会 2回 (12/1, 3)
- ・ノートテイク練習会 5回 (6/4, 10, 22, 7/3, 15)
- ・ノートテイク、サポーターフォロー講習会 4回 (6/11, 12, 9/10)

③ その他

大学指定団体「障がい学生サポートチーム」に所属する学生たちが、主体的に活動できるよう支援した。また、一般学生に向け障がいへの理解・啓発を図るための取り組みを行った。

【実績】

- ・障がい学生サポートチーム定例会 (5/14, 6/11, 7/9, 9/10, 10/8, 11/12, 12/10, 1/7)
- ・障がい学生サポートチーム研修会 (11/21)
- ・平成27年度学生ボランティア団体助成(助成金10万円)採択、表彰式 (1/25)
- ・障がい学生支援セミナー (3/10)
- ・障がいに関する卒業研究等の調査協力、情報提供

(イ) サポーター派遣事業

通学課程および通信課程に在籍する障がい学生の授業受講時、学内生活において、サポーター派遣を行った。

【実績】・肢体不自由学生(通学) 1名 前期 97回 後期 91回
・視覚障がい学生(通学) 1名 前期 15回 後期 0回
・聴覚障がい学生(通学) 5名 前期 322回 後期 214回
・聴覚障がい学生(通信) 3名 77回

※障がい学生数はサポートを利用した人数で、実際の在籍数と異なる。

(ウ) 学内環境整備事業

学内設備、備品等の整備

【実績】・学内点字表記

- ・バリアフリートイレマップの改訂
- ・東口キャンパスバリアフリー状況調査
- ・音声認識システム検討

(エ) その他

① 障がい学生支援に関して、学内外からの相談受付、連絡調整を随時行った。

【実績】

- ・「障がい学生に対する支援」をテーマに学内FDセミナーを開催（4/22）
- ・入学前相談、見学案内：
オープンキャンパス 6名（6/28, 7/19, 20, 8/22, 9/20, 10/25, 12/20, 3/27）
宮城県立西多賀支援学校（7/2）、国見祭 10名（10/24, 25）

② 職員の専門性の向上

- ・仙台学長会議 在仙大学障害学生支援ネットワーク情報交換会（6/1, 11/27）
- ・平成 27 年度障害学生支援実務者育成研修会（8/24, 25）
- ・平成 27 年度東北地区学生指導研修会（8/26~28）
- ・平成 27 年度全国障害学生支援セミナー「体制支援セミナー」（10/5）
- ・第 11 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（12/19, 20）

(13) 特別支援教育

特別支援教育研究室は、下記の 2 点を目的に活動をしている。

- 発達障害のある子どもが、その持てる力を最大限に発揮しながら生活し学習できることを目指し、そのための新しい支援の方法・内容を実践的に追求する。その支援の方法・内容を一般化することによって、我が国における特別支援教育の質を向上させる推進力となる。
- 本学の大学院生、学部生の研究・臨床実習の場とし、学生の実践力と理論的思考を学ぶ場とする。（学生には、発達臨床心理士志望、教員・保育士志望、実学臨床学生、ボランティア学生などがいる）

事業の概要と実績は以下の通りである。

(ア) 研究機能

本学関連機関、学校教育機関、相談機関及び他の研究機関と連携をとり、発達障害児・者への支援の内容・方法に関する研究を行う。1) 学習障害、注意欠陥/多動性障害、高機能自閉症のある学齢期児童生徒及び本学学生、2) 発達支援、学習や行動上の課題への支援

(イ) 相談機能

発達障害児・者の発達支援、学習や行動上の課題に関する相談を受け、保護者に対して助言する。

<実績>

個別相談・検査件数	165 件
-----------	-------

(ウ) 支援機能

発達障害児・者へ学習支援、行動のつまずきへの支援等、多様な支援を行う。具体的には、①個別学習支援、②ソーシャルスキル・トレーニング（コミュニケーション力を含む）、③作業療法（不器用さへの支援）、④パソコン

ン教室、⑤ペアレント・トレーニングを実施する。

<実績>

	個別学習	ソーシャルスキル	作業療法	パソコン教室	ペアトレ
回数	76回	15回	24回	15回	18回
参加延べ人数	76名	360名	24名	60名	48名

(エ) 教育・研修機能

- ①上記研究の成果を基にして、発達障害児・者の支援に関わる専門職を目指す学生及び大学院生に対して、発達障害児・者への支援に関する指導を行う。
- ②発達障害児・者の支援に関わるさまざまな専門職スタッフ(保育士、教員、特別支援教育支援員等)を対象にして発達障害児の支援に関する研修の場を提供する。
- ③保護者を対象として、発達障害児の理解、育て方、進路指導などについての基本的な情報を提供する。

<実績>

「家族と先生のための発達障害講座」

7月25日13時～16時 「就労支援からの提言」 参加者46名

- ▶ 「グループゆうの就労支援」講師：中村祥子(特定非営利活動法人グループゆう)
- ▶ 「六丁目農園の就労支援」講師：渡部哲也(株式会社アップルファーム)

11月14日13時～16時 「高等学校の教育から考える」参加者46名

- ▶ 「高校における発達障害生徒の支援と進路指導」
講師：門真咲江(宮城県美田園高等学校)
- ▶ 「知的障害児・者のキャリア教育」講師：アオキ真澄(塩釜市教育委員会)

(オ) 地域支援機能

- ①保護者の求めに応じ、地域の医療機関、学校及び相談機関と情報を交換し、発達障害児・者へ適切に支援をしていく。
- ②義務教育終了後の発達障害児・者の生活環境の質を高めるために行っている、さまざまな保護者団体の活動を支援する。
- ③発達障害児の行動上のつまずきや生活上の問題を解決するために「せんだんホスピタル」と連携する。

(14) 通信教育

(ア) 学生募集【実績】

- ①4月生、4月15日締切。総合福祉学部社会福祉学科420名、福祉心理学科111名、科目等履修生445名(うち343名幼保特例)合計976名入学。40名減。
- ②10月生、10月15日締切。総合福祉学部社会福祉学科139名、福祉心理学科26名、科目等履修生200名(うち170名幼保特例)合計365名入学。188名減。
- ③通信制大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻8名、福祉心理学専攻2名入学。

【平成 28 年度 募集】

①4 月生・10 月生 6 期に分けて募集。

4 月生 4 月 15 日まで募集中。平成 27 年 3 月末現在の出願受付者は、総合福祉学部社会福祉学科 313 名、福祉心理学科 71 名、科目等履修生 197 名合計 581 名。前年同時期比 140 名減（社会福祉学科 12 名減・福祉心理学科 6 名減・科目等履修生 122 名減）。

②通信制大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 7 名入学。

(イ) 平成 27 年度スクーリング開講【実績】

スクーリングはほぼ毎週末と 7 月下旬～8 月下旬の平日に実施。

①通常スクーリングは年間 257 講座開講。オンデマンド・スクーリングは年間 84 講座開講。ビデオスクーリングは年間 42 講座開講。

②在宅受講型オンデマンド・スクーリングは、在宅のパソコンで受講(動画視聴)するオンデマンド授業科目も順次増加中(現在 43 科目)。

(ウ) 平成 27 年度科目修了試験実施【実績】

通信教育部学生の定期試験にあたる科目修了試験実施。年 8 回実施。在宅 web 科目修了試験は年 7 回実施 (29 科目に限定)。在宅 web 科目修了試験、平成 28 年度より廃止予定。

(エ) 機関誌『With』ほか各種学修支援のための冊子発行【実績】

学生の動機づけ喚起と最新の連絡事項を掲載した機関誌『With』107 号(5/1 発行) から 114 号(3/18 発行) まで年 8 回発行。2 月には『学習の手引き』2012-2016 年版、『レポート課題集』2016 年版、3 月には『試験・スクーリング情報ブック』2016 年版発行。

(オ) 募集要項のリニューアル【実績】

入学希望者向け広報・確保のため、デザイン性を有するものにリニューアルを行った。

(カ) 通信教育部・卒業 通信制大学院・修了【実績】

9 月卒業生(平成 27 年 9 月 30 日付)

社会福祉学科 68 名、福祉心理学科 20 名 計 88 名。

3 月卒業生(平成 28 年 3 月 18 日・31 日付)

社会福祉学科 239 名、福祉心理学科 68 名 計 307 名

通信制大学院総合福祉学研究科 修了 8 名。

(キ) 社会福祉士実習演習担当教員連絡会【実績】

平成 27 年 12 月 5 日仙台(仙台駅東口キャンパス)で開催。

(ク) 社会福祉士実習指導者講習会【実績】

社会福祉士を取得する学生の実習受入れ施設拡大のため開催。27 年度受講生 73 名。平成 28 年 2 月 6 日・7 日実施。

(ケ) 精神保健福祉士実習指導者講習会【実績】

精神保健福祉士を取得する学生の実習受入れ施設拡大のため初開催。

平成 27 年度受講生 64 名。平成 27 年 7 月 25 日・26 日実施。

(コ) 教員免許状更新講習

【実績】8 講習を開設。平成 27 年度の修了・履修認定者のべ 502 名。

【平成 28 年度 募集】教員免許状更新講習 28 年度分開設認可。

平成 28 年 2 月 16 日より募集開始。

(15) FD・SD

(ア) 学内FDセミナー

① 全学

日時	テーマ
4月22日(水) 14:30～	障がい学生の理解と支援
	悩みを抱える学生への支持的アプローチ
6月17日(水) 14:30～	SNSについて
	研究倫理について
7月1日	外国語による授業の教授法
9月16日(水) 14:30～	内部質保証
	ティーチング・ポートフォリオ
	公的資金に係るコンプライアンス教育について
10月21日(水) 14:30～	地域共創
	教育に関する改革動向
11月18日(水) 14:30～	ICT&UNIPA 教育活用
12月16日(水) 14:30～	震災から4年間の取組み-被災地宮城からの発信-
3月2日(水) 10:00～	TKK3 大学連携 合同FD・SD研修会
3月16日(水) 14:30～	模擬授業 (アクティブラーニングを含む)

② 学科／研究科／通信教育部／通信制大学院

日時	テーマ	学科／研究科
5月13日	ゼミでの診療情報管理士認定試験対策の実施例	医療経営管理学科
5月27日	クリッカーを使った授業展開の紹介	リハビリテーション学科
6月3日	学生のメールマナーとその背景について	医療経営管理学科
6月24日	第40回情報福祉マネジメント学科研究会	情報福祉マネジメント学科
7月8日	歯科医療の現状と課題	医療経営管理学科
7月9日	企業による採用活動の動向と学科学生の現状について	福祉心理学科
9月9日	大学教員に求められる教育力と組織的取組について	医療経営管理学科
9月30日	インクルーシブ教育について	教育学科

9月30日	本学における発達障害がある学生の現状について	教育学研究科
10月7日	高等教育の変容と大学院の学位指導（個人的な体験から）	大学院合同
10月8日	スポーツの授業におけるアクティブラーニングの活用例	総合基礎教育（スポーツ）
10月14日	授業で心がけていること	保健看護学科
10月28日	内部質保証 自己点検・評価	情報福祉マネジメント学科
10月28日	ICTを活用した授業の実践例と資料整理の方法	福祉行政学科
11月4日	授業で心がけていること	保健看護学科
11月4日	高等教育の質保証と参照基準	医療経営管理学科
11月11日	教員の授業への取組 その1ー学生が質問や意見を出しやすいための取組についてー	社会福祉学科
11月11日	学生の授業評価の高い教員のレクチャー：「基礎知識が病態理解と理学療法臨床推論につながるための4つの工夫」	リハビリテーション学科
11月11日	通信教育部履修学生の現状について	通信教育部 社会福祉学科
11月12日	授業での補助教材の使い方、作り方	福祉心理学科
11月18日	授業の方法と改善	産業福祉マネジメント学科
11月26日	東北福祉大学の国際交流プログラムの現状と展望	総合基礎教育（外国語）
12月10日	公認心理師法成立を理解する 一新カリキュラム策定のための基礎学習ー	福祉心理学専攻
12月19日	『平成26年度 臨床実習指導者会議 特別講演』との共催①SNSと個人情報への対応（仮）、②失敗しないクレーム対応（仮）	リハビリテーション学科
1月14日	「アカデミック・ライティングを指導するー現状の分析と指導法の提案ー」（東北大学 PDP Online）動画視聴と意見交換	通信教育部 福祉心理学科
1月20日	協同学習について	教育学科
1月20日	学生の授業評価の高い教員の取り組み	情報福祉マネジメント学科
2月8日	運動が苦手な学生に対する指導法	総合基礎教育（スポーツ）
2月10日	戦略的研究基盤形成支援事業の取り組みについて	医療経営管理学科
2月10日	「学習効果を高めるICTの活用法 ～反転授業も含めた授業設計～」(東北大学 PDP Online) 動画視聴と意見交換	通信制大学院 福祉心理学専攻
2月10日	授業評価の重点項目についての情報共有と教育効果につながる様々な工夫について Effective language teaching & learning: Sharing innovation and practice related to key items from student course evaluations	総合基礎教育（外国語）
2月24日	教員の授業への取組 その2ー適切な授業構成：学生の予習・復習と主体的な取組についてー（案）	社会福祉学科

3月8日	「食べる・食・食事・栄養・消化・吸収」における各領域・分野で具体的にどのように授業内容を構成しているか知る。」	保健看護学科
3月23日	授業で上手くいったこと・いかなかったこと	医療経営管理学科
3月29日	語学教室（120, 121, 122 教室）のオーディオ機器刷新に伴う効果的な機器の使い方および EduTrack の説明会	総合基礎教育（外国語）

(イ) 学内SD研修会（平成27年度）

職員の意欲・資質の向上を図るための取組としてスタッフ・ディベロップメント（SD）を以下の通り実施している。

日時	テーマ
6月17日(水) 14:30～15:40	研究倫理(含 SNS) (FD&SD 共催)
7月21日(火) 12:30～13:30	大学教育の質的転換とスタッフ(大学職員)の役割を考える
8月26日(水) 12:00～13:30	グローバル化時代におけるスタッフ(大学職員)の役割を考える
8月27日(木)、8月28日(金)、9月2日(水)、9月3日(木) 9:00～17:30	セルフマネジメント研修 「ヤル気が出る！コミュニケーション講座」
10月13日(火)14:30～15:30	「ハラスメント」・「公的資金に係るコンプライアンス教育」
11月17日(火)14:30～15:30	マイナンバー(社会保障・税番号)制度

※なお、学内FDセミナーに職員も参加可能となっている。

(16) 芹沢銈介美術工芸館

(ア) 展覧会事業

①特別展「生誕120年記念 デザイナー芹沢銈介の世界」

2015年3月17日～6月17日※「第3回国連防災世界会議」仙台開催にあわせ、3/14(土)・15(日)・16(月)特別開館（プレオープン）

開館日数86日、入館者数6559名（臨時開館含む）

②企画展「芹沢銈介の作品 一新収蔵を中心に」

併設展「芹沢恵子コレクション ガラスいろいろ」

2015年7月1～25日(土)、開館日数30日、入館者数1715名

③特別展「ビーズ飾りの衣服と装身具」

併設展1「型紙－芹沢銈介の模様－」

併設展2「芹沢恵子コレクション ガラスいろいろ」

2015年9月28日～2015年12月21日、開館日数74日、入館者数4992名

④企画展「芹沢銈介の吉祥文 ーこめられた祈りー」

併設展1「ビーズ飾りの衣服と装身具」

併設展2「堤人形とやきもの」「町雛五段飾り」

2016年1月18日～3月17日、開催日数55日、入館者数1272名

⑤仙台駅東口キャンパスギャラリーの企画展示

- a. 「芹沢銈介作品展」 2015年5月14日～7月29日
- b. 「芹沢銈介の夏もよう」 2015年7月30日～10月13日
- c. 「芹沢銈介商業デザイン 和紙に染める模様」
2015年10月14日～2016年2月23日

(イ) 教育普及事業

①当館学芸員によるギャラリートーク

特別展「生誕120年記念 デザイナー芹沢銈介の世界」各土曜日11時～、
4月25日参加者26名、5月23日参加者30名、6月13日参加者37名

特別展「ビーズ飾りの衣服と装身具」各土曜日11時～

10月17日参加者20名、11月14日参加者20名、12月19日参加者41名

②講演会

5月9日13:30～15:00 「デザイナー芹沢銈介と型絵染」

講師：長崎 巖(ながさき いわお)氏 (共立女子大学教授) 参加者88名

③型染体験「紅型模様を染める」講師：土手武彦氏・土手千鶴子氏 (土手染色工房)

a. 10月10日10:30～15:30 [定員10名] 10名体験 材料費4500円

b. 10月11日10:30～15:30 [定員10名] 10名体験 材料費4500円

④ワークショップ

a. 「型 de あーと、布に染める」会期中 (3/17～6/17) 毎週火・土曜日
材料費:400円(額付の場合は1400円)福祉大生100円、開催日数27日、
参加者505名

b. 「うちわを作ろう」材料費500円 福祉大生100円

- ・一般開催日7/4, 11, 18, 25, 各土曜日11:00～15:00、開催日数4日、
参加者228名

- ・学生対象日7/6, 13, 20, 8/22, 各月曜日11:00～15:00、開催日数4日、
参加者101名

c. 「ビーズ飾りを作しましょう」

会期中 (9/28～12/21) 毎週月・土曜日 (ただし休館日と10/24は除く)

材料費400円、福祉大生100円、開催日数22日、参加者387名

d. 「貝根付を作ろう」会期中 (2016.1/18～3/17) 毎週月・土曜日 (ただし休館日は除く)

材料費150円 福祉大学生無料 開催日数14日、参加者173名

⑤ワークシート・チャレンジシートの作成

子どもから大人まで楽しく見学し、作品や芹沢について学べるチャレンジシート、在学生の授業用ワークシートを展覧会ごとに作成

⑥団体の受け入れ

せんだんの杜、福聚幼稚園保護者、西大崎地区公民館、とよまスポーツク

ラブ蔵っこ、等約 65 団体

(ウ) 学生教育事業

- ①工芸館クラブ「風の会」の育成
工芸館行事のサポートを目的とするサークル (1/29 現在部員 12 名)
- ②学生サークル活動の受け入れ
芹沢銈介生誕祭
 - a. 東北福祉大学サークルによる発表会 (会場: 5F ロビー)
5/12・15 吹奏楽部によるミニコンサート 参加者計 47 名
5/13・14 クラシックギター部による演奏会 参加者計 51 名
5/16 茶道部さくら会によるお茶会 参加者 36 名
 - b. サポートクラブ「風の会」によるワークショップ (会場: ミュージアムショップ)
5/12・16 「型 de アート、布に染める」材料費 400 円、参加者計 45 名
5/13・14・15 「葉を作ろう! 合羽刷り体験」材料費無料、参加者計 25 名
- ③博物館実習
学芸員資格取得のため、博物館実習の一環として年 4 回の受付業務と、年 3 回のワークショップサポートをする。博物館実習履修者数 18 名
- ④リエゾンゼミ見学の受け入れ
概説、ワークシート、ワークショップ体験を見学と合わせて行う。
2015 年度利用リエゾンゼミ数 (I・II): 30 クラス利用
- ⑤入試センターとの連携: オープンキャンパス開催日の開館 計 8 日
- ⑥インターンシップの受け入れ
休館中の事務業務について 8/31~9/42 名 (男 1 名 女 1 名) の受け入れ
- ⑦その他・授業の受け入れ
各授業や留学生 (国際交流センター) の要望に応じ、展示の説明やワークショップを開催。

(エ) 地域連携事業

- ①仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) への協力
 - ・ミュージアムユニバース 12 月 18 日~19 日
SMMA 参加館 15 館がメディアテークを会場に、トークとイベント広場、体験の広場、展示の広場、ミュージアムグッズショップの各コーナーを設ける事業に参加
 - a. トークとイベントの広場 12/19 13:00~13:45
SMMA 企画 ミュージアムのおきのお話「うごく編」担当: 奈良
 - b. 体験の広場 担当: 佐竹・佐藤・博物館実習生・風の会
 - ・12/18 13:00~17:00、12/19 13:00~17:00
和綴じ本+合羽刷り+紋きり遊び(仙台文学館・東北福祉芹沢銈介美術

工芸館・共生福祉会福島美術館)※各日 36 名先着順 参加者計 66 名
・12/18 13:00~17:00、12/19 13:00~17:00

おめでたい模様を合羽刷りで染めてみよう！ 参加者計 175 名

②国際博物館の日 (ICOM (国際博物館会議) 主催)

博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールするという目的の「国際博物館の日」に協力・参加し、5/18 に実施した。当館では、当日先着 20 名にセットハガキを進呈した。

③東北文化の日 (「東北文化の日」推進委員会事務局：宮城県環境生活部消費生活・文化課主催) 10 月 24 日、25 日

東北 6 県と仙台市が、毎年 10 月の最終土曜日とその翌日の日曜日を「東北文化の日」とし、東北の文化に関する情報を一体となって発信するというもので、設定日から約 1 カ月の事業期間の中で、各ミュージアム施設が無料開放や関連事業などを行う。当館では国見祭 (大学祭) の日に設定し、入場料無料とした。

④無料・割引サービスへの協力

- ・どこでもパスポート (仙台都市圏広域行政推進協議会主催)

仙台都市圏の小中学生向けの社会教育施設 (博物館美術館等) の無料見学パスポートに登録。

- ・ゆうゆうパスポート (石巻広域行政事務組合主催)

石巻圏域の小・中学生向けの社会教育施設 (博物館美術館等) の無料見学パスポートに登録。

- ・いきいき SUN クラブ (社会福祉法人宮城県社会福祉協議会主催)

宮城県内の 55 歳以上対象のクラブ。会員証により指定の県内文化施設を割引価格で利用できる。

- ・うれし楽し 蔵 de ひなまつり (粋々まちなかプロジェクト主催)

雛人形を通して仙台市内と塩竈市内・白石市内・東松島市内・栗原市栗駒町・涌谷町などを繋ぐ。チラシ持参で 100 円引き。

※この他に、高校生以下を無料、着物で来館された方は 100 円割引などを行っている。

(オ) 資料保管事業：資料やポジフィルムの貸出や借用

(静岡市立芹沢銈介美術館、柏市教育委員会、朝日新聞社 など)

(カ) 施設管理事業：省エネ対策 LED スポットライト (広角タイプ) 50 台の導入及び展示室ダウンライト 335 台分の LED 化。

(キ) その他の事業

①広報活動

ポスター・チラシ・案内はがきの発送、各報道・新聞社・出版機関へ展覧会場報の

- 発信、当館および各ウェブサイトによる情報の発信、ラジオ深夜便への協力
- ②ミュージアムショップ（1F）の運営：作品図録、絵はがきのほか、芹沢模様風呂敷や、和紙製品等、多様なグッズを取り扱う。大学記念品等への対応。
- ③カフェ「可否館」（5F）の運営
- ④大学カレンダーの製作 16000部（2016年は芹沢銈介作「信の字」の図案を使用）
- ⑤避難訓練
- ⑥作品貸出・展示作業
- ⑦朝日新聞社と共催による「生誕120年記念 デザイナー芹沢銈介の世界展」の開催（巡回） 5会場合計 128,571名
 <会期・会場>2014.9.10～9.23 東京・日本橋高島屋
 2014.9.25～10.6 神奈川・横浜高島屋
 2015.1.7～1.19 京都・京都高島屋
 2015.1.21～2.2 大阪・なんば高島屋
 2015.3.17～6.17 宮城・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

(17) 図書館

(ア) 図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況

①新設研究科・学部・学科用資料の整備

平成27年度に開設された教育学部・教育学研究科用の資料の収集を平成26年度から完成年度まで計画的に行っている。平成27年度の資料の収集状況は以下のとおりである。（平成28年1月12日現在）

図書・AV資料（冊数）

	教育学研究科		教育学部		福祉行政学科	
	和	洋	和	洋	和	洋
図書	165	68	1,905	120	284	1
AV資料	3	0	28	3	0	0
計	168	68	1,933	123	284	1

また、雑誌資料の平成28年度契約については、以下のとおりである。

雑誌（タイトル数）

	教育学研究科		教育学部		福祉行政学科	
	和	洋	和	洋	和	洋
冊子	11	6	113	6	5	2
電子ジャーナル	0	484	0	4	0	1,100
データベース	0	0	0	2(4,600)	0	0
計	11	490	113	12(4,600)	5	1,102

②電子ブックの本格導入

本年度より、参考資料の電子ブックを本格導入し、平成 27 年末現在 19 タイトル（和書 15、洋書 4）を公開運用している。また、平成 28 年 2 月から英語多読教材も公開予定である。*http://www.tfu.ac.jp/libr/e_eb.html

(イ) 図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備等の利用環境

①狭隘問題への対応

平成 27 年現在、図書館の資料収容能力は 120%に至っており、狭隘問題は最優先課題となっている。そのため重複資料の除籍、契約電子ジャーナルで購読可能な冊子体雑誌の廃棄等処理を計画的に行っている。

②職員の専門性育成及び確保

図書館職員を「全国図書館大会」、「私立大学図書館協会総会・研究大会」、「同協会東地区部会研究講演会」、「東北地区図書館協議会研修会」、「著作権実務者講習会」等の 15 研修会等へ延 21 名の職員が出席して図書館員としての専門の能力の向上に努めた。また、平成 27 年 4 月・9 月に司書資格を有する職員各 1 名を採用し図書館運営にあたっている。

③閲覧室・情報検索設備等の利用環境の整備

閲覧室及び集団学習室の整備を以下のとおり行った。

- ・学生の要望が多かった個人ブースを 2F 閲覧室に 130 席従来の 8 人掛け用閲覧机から交換、同じ 2F 閲覧室に 4 人掛け衝立付き机を 7 台、更に 3F 閲覧室の 6 人掛け用閲覧机に衝立を設置し個人用として利用できるようにした。
- ・集団学習室に可動式大型ディスプレイスタンドと可動式プロジェクタースタンドを導入した。

このことにより従来荷物置き等に利用していた席を有効活用することができ、集団学習室の整備を行ったことでラーニングコモンズの要素を取り入れることができた。

8 月には図書館システムのバージョンアップを行い、学生証・教職員証の IC カード化に対応、スマートフォン対応 OPAC の採用、MyOPAC からのシングルサインオンによる貸出予約状況紹介、文献複写・貸借申込、図書購入申込などのサービスと電子資料利用が可能になったことで更なる情報検索環境が整備された。

(ウ) 国内外の教育研究機関との学術相互提供システムの整備

図書館では、国立情報学研究所が運営する NACSIS-ILL に参加し、図書館間で行われている相互貸借サービス（文献複写や資料現物の貸借の依頼及び受付）のやりとりを継続的に行っている。

また、学術情報の発信を目的とした「東北福祉大学リポジトリ」を学内シ

システムから国立情報学研究所の運営する「JAIRO Cloud」に移行して国内外の研究者等に、研究紀要等の全文の公開を開始した。

(エ) 社会との連携・協力

①登録会員制度による図書館の開放

平成 19 年より図書館を地域住民・卒業生・関連法人職員等に登録会員制度を設けて開放し、図書館資料の貸出などを行っている。平成 28 年 1 月現在登録会員数は、154 名になっている。

(オ) その他業務上の重要事項

①貸出条件の変更

4 月から貸出可能冊数を学生・大学院生・教職員とも学生閲覧図書を 5 冊から 10 冊に、大学院生の書庫本を 15 冊から 30 冊に変更し更なる資料利用促進に努めた。また、各種実習で長期に本学を離れる学生に対し、「実習中の特別貸出」を行うこととした。これは、実習期間内に必要な図書館資料を一定期間貸し出すもので、学生・教職員からも好評を得ている。

②研究用図書購入依頼金額の変更

4 月から専任教員の研究図書の購入依頼金額の上限を 1 人 10 万円から 15 万円に引き上げ、研究・教育の一助とした。

③ビブリオバトルの開催

図書館の広報活動の一環として、本を媒体として学生とのコミュニケーションを図り、「本を読む」、「本を紹介する」楽しみを図書館から発信し、図書館の利用増加・貸出冊数増加という点を目標に発表者 5 名で 10 月に開催し、好評を得ることができた。

④選書ツアーの実施

9 月に学生 12 名が丸善仙台アエル店において、61 冊選書し図書館に所蔵して利用に供した。これは、学生が自分たちのために学生目線で資料を選ぶもので、学生の意見が反映するよい機会となっている。また、自身が選定した資料を紹介するポップの作成方法などを職員 3 名が講師となりポップ教室を開催して図書館内に資料と作成したポップを展示した。

⑤図書館 1F エントランスホールの提供

11 月から図書館活動を学内により広く周知し、開かれた入りやすい図書館を実現するために 1F エントランスホールを学生の研究等発表の場として提供を開始した。学生同士、学生・教職員の関わりの持てる場を提供することにより、図書館が交流の場となることを期待している。

⑥中学生職場体験学習の受入

11 月に仙台市立五橋中学校の 4 名の生徒を 3 日間職場体験学習として受け入れ、大学図書館の業務全般にわたって学んでもらった。

5. 入試に関する事項

(1) 入試センターのスタッフと業務

入試センターはスタッフ 11 名で、学生募集活動と入学試験の実施を担当する。

(2) 大学進学に関する状況

大学進学状況に影響をおよぼす 18 歳人口と進学率の状況は、前年の 18 歳人口 120 万人に対し今年約 1 万人少ない 119 万人である。4 年制大学への進学率は約 49.9% で前年度とほぼ同率である。大手進学塾などは各大学の受験者数が前年対比 5% 位減少すると予想している。

(3) 学生募集活動

(ア) 高校内説明会および相談会

高校内説明会は高校から直接依頼があって実施している場合と、業者が仲介して実施する場合がある。東北地区を中心に 171 校 3,657 名に対して大学説明および入試説明を実施した。前年対比 24 名約 0.7% の増加である。

(イ) 会場説明会および相談会

会場説明会は業者の仲介で各都市の会場で実施する説明会である。平成 27 年度は北海道から関東までを中心に 180 会場に出席した。ブースを訪れた教員 59 名、生徒 1,861 名、保護者 213 名の 2,133 名に対応した。前年対比 116 名約 5.8% の増加である。

(ウ) 出張講義

高校生に本学の学びと卒業後の仕事について理解を深めていただくために、本学教員が高校に出張して講義を実施した。本学の 4 学部 9 学科 4 専攻ごとに出張講義一覧 (KUNIMI BOOK) を作成して、高校訪問時に持参または進路指導部あてに郵送している。その冊子から高校より出張講義を依頼され、平成 27 年度は東北の高校を中心に 65 校に出向き 2,043 名の生徒に講義を行った。前年対比 3 名約 0.1% の増加である。

(エ) 高校訪問 (進路指導部)

本学の教育研究、資格取得状況、就職状況、学生生活、入試状況などを高校教員に理解を深めていただくために With You (キャンパスガイドブック)、入試ガイド、キャリアデザインハンドブック、キャンパスカレンダー、赤本 (過去の入試問題集) 等を持参し説明をしている。生徒の進学は保護者以上に進路指導教員の指導・アドバイスの影響力があるため特に重点的に実施している。平成 27 年度は北海道から関東までを中心に 16 都府県 1,104 校の進路指導部を訪問し説明を実施した。前年対比 381 校増で約 52.7% の増加である。同時に出身高校の在学生の学業や学生生活の状況と卒業生の就職状況も併せて報告をしている。

(オ) オープンキャンパス

本学の理解を深めいただくためにオープンキャンパスを8回実施した。第1回「AO入試・推薦入試対策」、第2回「特集総合福祉学部・教育学部」第3回「特集総合マネジメント学部・健康科学部」、第4回「将来の自分を見つけよう」、第5回「必勝！推薦入試対策」、第6回「一般入試相談会」、第7回「1・2年生進路サポート企画」、そして3月に第8回「進学年スタートダッシュ！応援企画」を開催した。平成27年度は生徒3,762名、保護者1,868名の合計5,630名の参加者であった。前年対比43名約0.8%の減少となった。なお、第7回のオープンキャンパス実施時に平成28年度特別選抜入試の入学予定者に対し「合格者の集い」を同時に実施した。入学までの学習方法やレポートの作成方法やリエゾンドリルの実施などの指導を学科ごとに実施した。生徒529名、保護者246名で合計775名の参加者であった。

(カ) 単独進学説明会（進路指導教員・生徒・保護者対象）

高校の進学指導教員に本学の理解を深めていただくために東北を中心に11会場で単独の説明会を実施した。進路指導教員142名、生徒97名、保護者52名の合計291名の参加者であった。前年対比56名約23.8%の増加となった。

(キ) 大学見学来校

高校からの依頼により26校、教員58名、生徒883名が本学を訪問した。説明会場を音楽堂中心に口頭による説明と大学紹介ビデオを上映し本学の学習内容などの魅力を伝えた。1月末現在のところ前年対比19校・教員37名・生徒335名の減少である。

(4) 入学試験の実施

(ア) AO入学試験

I期II期III期と3回のAO入試を実施している。各期の1次選考を合格した受験者が2次選考に進み、2次選考で合格し所定の手続きを完了した者が入学予定者となる入試である。出願資格が高校での評定平均値が3.5以上の生徒が対象となっている。1次選考では書類審査と面接に加え基礎学力審査を実施している。2次選考では面接と各学科の特性を生かした選考方法を採用している。平成28年度の志願者は248名で前年対比77名約45%の増加となった。（表1参照）

(イ) 推薦入試A方式

高校の評定平均値が3.5以上の者で「福祉」「商業・情報」「保育・家庭」「看護」に関する科目を6単位以上修得（修得見込みも含む）し学校長から推薦された者が対象となる〔専門課程推薦入試〕と、同じく高校の評定平均値が3.5以上の者で祖父母、父母、兄弟姉妹が本学の卒業生または在生をもつ者で学校長から推薦された受験者を対象とした〔子弟等推薦入試〕がある。〔帰国生徒入試〕〔社会人入試〕〔外国人留学生入試〕も同時に実施して

いる。書類審査、小論文、面接で総合判定し合否決定している。平成 28 年度の志願者は 120 名で前年対比 22 名約 18.3%の減少となった。(表 1 参照)

(ウ) 推薦入試 B 方式

高校の評定平均値が 3.5 以上の者で学校長から推薦された者が受験する入試方法である。書類審査、小論文、面接で合否判定する。平成 28 年度の志願者は 781 名で前年対比 31 名約 4.1%の増加となった。(表 1 参照)

(エ) 一般選抜 A 日程入試

A 日程入試には、1 日の試験で複数の学部学科専攻を併願できる「学部統一試験」と本学の 4 学部 9 学科 4 専攻を 3 日に組み合わせて 1 日 1 学科を受験でき 3 日間最大 3 学科の併願受験が可能な「学部分割試験」を実施している。なお、「学部統一」試験と「学部分割」試験の併願受験も可能な入試である。平成 28 年度の志願者は「学部統一」試験の総数 1,642 名で実数 1,021 名、「学部分割」試験の総数 1,313 名で実数 1,049 名である。A 日程総合の総数は 2,955 名で実数は 1,433 名の結果となった。A 日程全体の前年対比総数で 264 名 8.2%、実数で 187 名 11.5%の減少となった。(表 1 参照)

(オ) センター試験利用入試

大学入試センターが実施するセンター試験の得点のみで合否判定する「センター試験利用入試」の「前期」と「後期」を実施する。平成 28 年度センター試験利用入試「前期」の志願者総数は 1,231 名で実数は 885 名であった。前年対比総数で 295 名 12.3%実数では 220 名 19.9%の減少となった。(表 1 参照) センター試験利用入試「後期」の志願者総数は 119 名で実数は 86 名であった。前年対比総数で 7 名 6.3%、実数では 6 名 7.6%の増加となった。(表 1 参照)

(カ) 一般選抜 B 日程入試

昨年度より A 日程入試同様に 1 日の試験で複数の学部学科専攻を併願できる「学部統一試験」と本学の 4 学部 9 学科 4 専攻を 2 日に組み合わせて 1 日 1 学科を受験でき、2 日間最大 2 学科の併願受験が可能な「学部分割試験」を実施した。なお、「学部統一」試験と「学部分割」試験の併願受験も可能な入試である。平成 28 年度の志願者は「学部統一」試験の総数 409 名で実数 255 名、「学部分割」試験の総数 303 名で実数 248 名である。B 日程総合の総数は 712 名で実数は 299 名の結果となった。B 日程全体の前年対比総数で 98 名 12.1%、実数で 62 名 17.2%の減少となった。(表 1 参照)

(キ) 一般選抜 C 日程入試

C 日程入試は、1 日の試験で複数の学部学科専攻を併願できる「学部統一試験」の入試を実施している。平成 28 年度の志願者は「学部統一」試験の総数 363 名で実数 213 名で、前年対比総数で 70 名 23.9%、実数で

40名 23.1%の増加となった。(表1参照)

(ク) 入学試験の最終結果

前年度入学試験の志願者総数は7,001名である。平成28年度入試の志願者総数は6,507名で、前年対比総数494名7.06%の減少となった。(表1参照)

○表1 志願者数の前年対比表

入試種別	志願者総数		前年対比	
	平成28年度	平成27年度	増減数	増減率
AO入試	248	171	77	45.03%
推薦入試A方式	98	120	-22	-18.33%
推薦入試B方式	781	750	31	4.13%
センター利用前期	1,231	1,526	-295	-19.33%
一般選抜A統一	1,642	1,757	-115	-6.55%
一般選抜A分割	1,313	1,462	-149	-10.19%
一般選抜B統一	409	445	-36	-8.09%
一般選抜B分割	303	365	-62	-16.99%
センター利用後期	119	112	7	6.25%
一般選抜C統一	363	293	70	23.9%
合計	6,507	7,001	-494	-7.06%

(5) センター試験会場割り当て

今年度もセンター試験の会場として1,058名を受け持ち実施した。試験監督等については東北薬科大学と共同実施した。今年度実施で6年目を迎えたが、天候にも恵まれ何のトラブルもなく無事2日間を終えた。

(6) 広告出稿

(ア) 交通広告

仙台駅舎西口2階中央出入口上部に電飾広告を設置している。山形駅エスパル2階東口連絡通路に大型広告看板を設置している。また、仙台空港到着ロビー2階壁面に電飾広告を出稿している。さらに、仙台市地下鉄南北線および東西線の全車両乗車口ドア上部にオープンキャンパスの告知と入試日程の広告を掲出している。

(イ) 媒体広告

本学のホームページに受験生向けサイトWith You+を作成して、志願者確保に努めている。また、ベネッセ(進研アド)のマナビジョンなど13社にネット広告を出稿している。さらに、リクルート社発行進学事典など入試情報雑誌13社に大学および入試広告を出稿している。その他、不定期であるが新聞広告も出稿している。

(ウ) 資料請求

ネット媒体による資料請求のほかにダイヤ書房などのハガキ資料請求を利用し、大学案内や願書などを郵送している。

(7) 印刷物の発行

(ア) With You(キャンパスガイドブック)

大学の教育研究紹介、在学生の学びの状況、卒業生紹介や学生サービスの内容、施設設備などを掲載している With You を 45,000 部印刷し入試広報および学生募集に活用している。

(イ) 入試ガイド

入試日程や方法および前年度の入試結果などを掲載している入試ガイドを年間 30,000 部印刷して学生募集に活用している。

(ウ) 入試要項および願書

AO入試要項および志願票などを 1,500 部セット印刷して、相談会や資料請求者のAO入試受験希望者に配布している。推薦入試および一般入試はすべてネット出願による出願形式とし、入試要項および志願票などは今年度から印刷はしておらず、大学ホームページの受験サイトに掲載している。また、学士入学や編入学試験の要項も大学ホームページの受験サイトに掲載している。ただし、出願は紙媒体の出願としている。

(エ) キャリアデザインハンドブック

18歳人口の状況や大学進学率の状況などの文部科学省学校基本調査からの速報値や本学の情報を盛り込んだ、未来の自分探しに役立つキャリアデザインハンドブックを 4,000 部印刷して学生募集に活用している。

(オ) オープンキャンパスリーフレット

年間8回実施したオープンキャンパスのリーフレットを 20,000 部印刷して資料請求者や相談会などで配布し、オープンキャンパスへの参加を促している。

(カ) カレンダー

本学の主な学年歴と学生募集に関わる相談会の予定や入試に関わる予定を記載したカレンダーを 10,000 部作成して相談会などの本学ブースで配布している。高校生および保護者を対象としたカレンダーである。

(8) 高大連携

(ア) 仙南向山高校

仙南向山高校で実施しているアカデミックインターンシップ（高校の夏休み期間を利用して興味のある分野の研究室に入り込み、共同研究活動をして発表会を実施する活動）に協力している。今年度は2分野9名の参加者であった。

(イ) 名取北高校

本学の4学部9学科4専攻の出張講義を1年生対象に行っている。また、進路説明会と進路講話を実施している。12月に実施するオープンキャンパス時にバスを手配し、生徒と保護者の送迎を行っている。

(ウ) 東北生活文化大学高校

本学の4学部9学科4専攻の学校説明と進路講話を2年生対象に実施している。

6. 就職支援に関する事項

(1) マッチング事業

きめ細やかで丁寧な個別対応を心がけ、学生の顔が見える支援を行う。

(ア) 直接支援事業の強化

【4年生支援】

①4年生フォローアップ講座

・9月14日、9月16日 【参加学生】延23名

②未内定者のフォロー講座（11月～3月まで毎月開催）

就職活動の振り返りや対策指導、今後の活動方法などの講座および求人相談会を開催する。振り返りを丁寧に行い、ブラッシュアップの機会とする。段階に応じてハローワークやリカレント室の活用法についても説明会を行う。

◎実施日 10月29日 参加者 12名

1月22日 〃 2名

2月26日 〃 6名

2月8日 〃 3名

③東北地区私立大学就職セミナー（28大学加盟）

10月8日（木）仙台サンプラザに於いて、東北地区私立大学就職問題協議会（28大学加盟）主催により4年生対象の合同企業説明会（参加企業95社）を開催。

◎全体参加学生数388名 本学参加学生数49名

④合同企業説明会

就職活動を継続する4年生のために、開催を計画したが参加学生少数のため開催を見送る。（希望者は、学内単独説明会に参加を勧める）

⑤学内単独説明会（開催時期により3年生も対象となる）

分野を問わず積極的に勧誘し、単独事業所による学内説明会を4月～3月で168事業所を誘致した。

【3年生支援】

①合同企業業界セミナー（120社）平成28年3月5日（土）福聚殿体育館にて開催

就職活動のスタートのためのイベントではなく、内定に結びつく貴重な機会と意識づけて実施した。セミナーはもちろんのこと就職活動に対して徹底した業界・企業研究をベースに臨めるよう事前・事後指導も行う。

◎参加学生数 581名

(イ) マッチング目的の攻めの情報収集

①情報収集

学生の希望先を明確に把握し、求人掘り起こしと採用試験のセッティングを意識した訪問を行い、卒業生在職状況や採用試験内容を把握し学生とのマッチングを行った。

◎企業情報収集 5月～6月 138社訪問

◎福祉・医療施設情報収集 10月～12月 397施設訪問

(2) 各種ガイダンスやキャリア支援講座

各種ガイダンスやキャリア支援講座を通して学生個々の直接指導へと導く。

(ア) キャリアガイダンスの充実 (2～4年生)

①3年生キャリアガイダンス (学科別) ※就活ダイアリーの配布

・期間 6月1日～6月5日5日間【参加学生】1,111名

②福祉・医療ガイダンス・7月・10月 5回実施【参加学生】延152名

③テーマ別出張型出張ガイダンス・5月～11月末現在 6回の依頼【参加学生】195名

④女子学生のためのキャリアガイダンス・11月11日実施【参加学生】28名

(イ) テーマを細分化した対策講座の充実 (2～4年生)

①全30回シリーズの体験型講座・5月～12月まで30回実施【参加学生】延1,517名

(ウ) 少人数制で実践力養成講座

①ファイナンシャルプランナー (FP) 講座・5月～7月まで7回実施

・【FP3級検定試験】 9月13日 受検者数16名 合格者7名

合格者内訳【1年生2名、2年生2名、3年生2名、4年生1名】

②TOEICガイダンス・スコアアップ講座

・5～6月3コマ【参加学生】延107名、10月3コマ【参加学生】延34名

③各種筆記試験対策講座および模擬試験

SPI-3の解き方や攻略方法、WEB試験対策の解説をはじめ、一般常識試験、クレペリン検査、論作文 (添削付き) の模擬試験等を下記の通り実施した。

・6月～9月まで3講座を実施【参加学生】延146名

④履歴書・エントリーシート講座 (通年月2回の開催)

本学の特徴を生かす方法も含め、自分自身の伝えたいことを上手に表現できるよう履歴書やエントリーシート (手紙の書き方も含む) 等の講座を実施した。

◎前期10回【参加学生】延54名、後期13回【参加学生】延86名

⑤面接力アップ講座 (通年月2回の開催)

面接マナーを実践的に身につけられる体験型講座。個人面接のみならず様々な面接形態を経験し、実践力をアップさせるために実施した。

◎前期9回【参加学生】延32名、後期14回【参加学生】延74名

⑥模擬面接会

就職情報会社等5社から講師を招き、グループ面接とディスカッション面接を実施する。個人評価をプロ（情報会社）から得ることで評価ポイントを客観的に知り、レベルアップを図る。

◎2月13日（土）ステーションキャンパスで実施 【参加学生】69名

（エ）個別相談・個別支援

①キャリアセンタースタッフによるキャリア相談

1～4年生まで随時キャリア相談を実施。自己分析や履歴書・エントリーシートの添削のみならず、将来や進路に対する不安や悩み等にも対応する。内容によっては障がい学生支援室、ウェルネス支援室、学生相談室、特別支援教育研究室等とも連携し、より丁寧な対応を行った。

②履歴書・エントリーシートの添削・指導 毎週月曜日～金曜日まで実施
・4月～3月 【学生総数】912名 【学生実数】636名

③模擬面接 毎週月曜日・水曜日・金曜日に実施
・4月～3月 【学生総数】666名 【学生実数】526名

（3）就職が困難と予測される学生（卒業生）の支援

（ア）リカレント室

就職活動継続者への求人情報提供、キャリア相談、個人相談他を丁寧に行い、就職先決定に至るよう支援した。

◎4月～3月 【登録者数】53名（内27年3月卒 35名）

【相談者】9名、模擬面接者8名、履歴書添削者5名【就職先決定者】9名

（イ）障がいのある学生のキャリア支援

障がい学生の現状把握および評価と早期支援を目的に障がい学生支援室、ウェルネスセンター、特別支援教育研究室等をはじめとする学内の各部署と連携を図り、支援を行っている。

◎平成27年度 障がいのあるの在籍状況

・聴覚障がい6名、肢体不自由4名、聴覚+肢体不自由1名

（ウ）障がい学生のためのインターンシップ

◎科目：8月5日～18日、8月17日～21日 2名の学生が参加した。

・受入事業所 ①株式会社データウェイ・システムズ 1名
②株式会社ジェー・シー・アイ 1名

（4）間接的支援事業

（ア）教員との学内連携強化

①「就職活動に関わる情報共有会議」の開催（学科別キャリア担当教員）

※年数回実施

◎実施日 5月27日 【参加教員】21名

内 容 就職活動調査、キャリア教育、インターンシップ、キャリア塾の説明
学科別キャリア支援の課題について意見交換

◎実施日 7月21日 【参加教員】15名

内 容 平成28年3月卒の就職活動状況について、就職活動時期後ろ倒しの影響について、保護者の会実施状況について、キャリア塾進捗状況について、学科別キャリア支援の課題について意見交換

◎実施日 12月21日 【参加教員】17名

内 容 平成28年3月卒の就職内定状況報告
学科別キャリア支援の課題について意見交換

②「福祉・医療関係実習と就職に関わる情報共有会議」の開催（資格実習別）

◎日程調整の関係上、開催出来ず。

③内定状況調査（ゼミ調査）や内定状況の聞き取り調査（電話ローラー等）の際の協力要請

◎第1回目ゼミ調査 期間：9月10日～9月18日

◎第2回目ゼミ調査 期間：11月30日～12月11日 を要請した。

◎就職内定状況未報告者への聞き取り調査（電話ローラー）を12月より実施している。

対象学生：509名、1月15日現在140名に連絡が取れていない。現在も聞き取り調査継続中。（聞き取りにより内定先判明学生数、147名）

(イ) 保護者の会の開催

今年度も（6月～9月）キャリアセンターと教務部合同にて、大学の近況報告・キャリア支援等の報告後、相談希望者と個人相談を行った。

※開催日、開催地、参加人数、個人面談者は下記の通りであった。

開催日	開催地	参加人数	相談者 (教務課)	相談者 (キャリア)
6月27日(土)	岩手県盛岡市	68名	2組	19組
6月28日(日)	秋田県秋田市	76名	8組	30組
7月4日(土)	青森県青森市	32名	4組	10組
7月5日(日)	青森県八戸市	25名	5組	7組
7月11日(土)	山形県山形市	130名	8組	45組
7月12日(日)	山形県酒田市	46名	2組	15組
7月18日(土)	茨城県水戸市	19名	3組	10組
7月25日(土)	福島県福島市	58名	4組	17組
7月26日(日)	福島県会津若松市	26名	4組	4組
9月5日(土)	宮城県仙台市(本学)	295名	29組	58組
合 計		775名	69組	215組

7. 研究に関する事項

(1) 研究事業の取り組み

感性福祉研究所では、「感性福祉研究センター」および「健康科学研究センター」を設置し、それぞれのセンターにおいて、私立大学戦略的研究基盤形成事業を推進することで、地域および社会からの要請に即した研究分野の基盤形成を目指した。以下では、具体的な事業内容を、センター毎に示す。

(ア) 感性福祉研究所 感性福祉研究センター

当センターでは、戦略的研究基盤形成支援事業：「東日本大震災を契機とする地域の健康福祉システムの再構築」（平成 24 年度採択）に取り組み、5 年間の研究期間のうち 4 年目を迎えた。

①全体研究会の開催

第 7 回全体研究会および第 8 回全体研究会を開催し、研究グループ毎に研究内容、及び、進捗状況が報告され、情報共有・意見交換が行われた。

a. 第 7 回全体研究会

開催日：2015 年 7 月 25 日、開催場所：ステーションキャンパス 3F 研修室

b. 第 8 回全体研究会

開催日：2016 年 2 月 6 日、開催場所：ステーションキャンパス 4F S400

②外部評価委員会の実施

事業の進捗状況、および、課題点の評価を受けるため、外部評価委員会を開催した。そこでは、進捗状況を外部評価委員に報告し、客観的かつ公平な立場から本事業の改善方法等に関する助言をいただき、特に改善の具体的方策について建設的な助言を得られることできた。

開催日：平成 27 年 11 月 8 日、開催場所：感性福祉研究所 2F 大会議室

③主な研究内容

本研究事業では 26 の研究グループを形成し、それぞれのテーマのもとに研究活動を推進している。下記にそのテーマの一部と実施内容を示す。

a. 認知症高齢者の認知機能および生活機能の改善に向けた音楽・運動等の複合的プログラムの介入効果に関する研究

音楽の歌唱、身体運動、回顧映像の視聴の 3 要素を取り入れた独自の複合プログラムが、高齢者の認知および生活機能に与える影響を検証している。

b. 災害が社会福祉、ソーシャルワークに与えた衝撃とそれへの対応に関する研究

宮城県内の社会福祉専門職へのヒアリング調査を実施し、震災発災後の初期段階におけるソーシャルワーカーの活動について、調査・分析を実施した。

c. 東日本大震災における子どもの健康福祉システムの再構築

東日本大震災後の子どもの健康実態の把握と発災時の対応について
明らかにすることを目的に、郵送によるアンケート調査を実施した。

(イ) 感性福祉研究所 健康科学研究センター

当センターでは、戦略的研究基盤形成支援事業：「社会的・職業能力育成プログラムに資する認知・脳科学的エビデンス情報提供基盤の構築」（平成 26 年度採択）を推進し、5 年間の研究期間のうち 2 年目を迎えた。

①外部評価委員会の開催

研究組織と進捗状況等の評価を受けるため、外部評価委員会を開催し、第 3 者の委員（3 名）に研究組織、研究内容、進捗状況を報告し、その評価を受ける。

開催日：平成 28 年 2 月 13 日、開催場所：感性福祉研究所

②主な研究内容

- a. MRI 実験：主に、大学在籍期間中の教育・訓練による脳の可塑的变化を計測するために MRI (機能・構造) 画像を収集し、分析を行った。被験者数：309 名
- b. 心理実験：教育・訓練による脳の可塑的变化及び職業適性に関する心理データを質問紙などで収集し、相関分析・因子分析法などの解析方法によりデータ分析を行った。被験者数：487 名

(ウ) 『感性福祉研究所年報 第 17 号』の発刊

2 研究センターにおける戦略的研究基盤形成支援事業の詳細、ならびに、原著論文をまとめ、『感性福祉研究所年報 17 号』を発刊する(2016 年 3 月)。

8. 社会貢献に関する事項

(1) 生涯学習支援

社会貢献センター生涯学習支援室を中心に生涯学習の支援を行っている。

以下の開放講座を開催した。

(ア) 「スポーツから人生を学ぶ～スポーツはすべてのことを教えてくれる～」

期間：8 月 25 日～9 月 15 日毎週火曜日 全 4 回

講師：本学特任教授 国分秀男 受講者数：10 名

(イ) リカレント講座「学校危機における養護教諭のためのパワーアップ講座～ともに学び、ともに備え、自身の回復力を引き出すために～」

期間：9 月 26 日・10 月 3 日両土曜日 全 6 回

講師：本学教授 西野美佐子、本学講師 内藤裕子 他 5 名（外部講師 2 名）

受講者数：13 名+学生数名

(ウ) 「古文書の解読法」（初級～中級編）

期間：10 月 1 日～10 月 29 日毎週木曜日 全 5 回

講師：岩手大学名誉教授 元本学教授 細井計

受講者数：50 名+1 名（教員講座受講）

(エ) みやぎ県民大学開放講座「社会保障制度の変革～日本社会の持続と安定のために～」

期間：10月9日～11月13日毎週金曜日 全6回

講師：本学教授 志田民吉ほか3名 受講者数：14名

(オ) 「戦後70年 経済の発展と教育」

期間：10月9日～11月13日毎週金曜日 全5回

講師：本学教授 鴨池治、本学教授 星山幸男 受講者数：3名+学生数名

(カ) その他

① ウィークエンド坐禅会

期間：4月25日～12月19日 講師：本学仏教専修科 半崎義則老師ほか

② インターネットを活用した情報発信研修会（仙台市青葉区社会福祉協議会）

期間：9月3日 講師：本学助手 高橋俊史 受講者数：25名

③ 清滝地区振興協議会大崎市社会福祉協議会清滝地区合同研修会（大崎市社会福祉協議会）

期間：11月24日 講師：本学准教授 菅原里江 受講者数：23名

④ 中山銀鈴倶楽部 講話「禅の作用とその効用について」（中山市民センター）

期間：2月5日 講師：本学教授 斉藤仙邦 受講者数：50名

(キ) 社会人受け入れ事業

① 履修証明社会人コース 計0名

② 社会人聴講生受け入れ人数計21名27科目）以下参照

	聴講科目名	担当教員名	開講期間
1	高齢者福祉論	石附敬	通年
2	特講（国際政治論）	生田目学文	通年
3	環境衛生学	大内真弓	通年
4	人間関係論	吉田綾乃	前期
5	中小企業論	園田洋一	後期
6	社会心理学	吉田綾乃	後期
7	発達障害者の心理	黄淵熙	通年
8	福祉用具と生活支援 I	関川伸哉	後期
9	家族心理学	西野美佐子	前期
10	特講（健康デザイン論）	国分秀男	通年
11	日本史概説	横田信義	通年
12	金融論	鴨池治	前期
13	美術史特殊講義	門脇佳代子	後期
14	人格心理学	皆川州正	前期
15	自然地理学	松林武	通年
16	英語 I（11組）	高橋加寿子	前期

17	英語Ⅱ（11組）	高橋加寿子	後期
18	仏教学概論	斉藤仙邦	通年
19	禅のこころ（全6回）	斉藤仙邦	通年全6回
20	災害情報論	坪川宏	後期
21	健康相談活動（理論及び方法）	内藤裕子	前期
22	地誌	松林武	通年
23	特講（健康福祉開発Ⅰ）	風間典昭	前期
24	特講（健康福祉開発Ⅱ）	風間典昭	後期
25	食と生活	畠山英子	後期
26	心理学の基礎	中村修	後期
27	法の基礎（国際法を含む）	米谷光正	前期

*なお、日本史概論、仏教学概論、禅のこころ、発達障害者の心理、美術史特殊講義、食と生活の6つの科目は、それぞれ2名ずつ受講している。

(2) 地域共創の推進

地域共創推進室の機能と役割について

- ① 本学、国見地区連合町内会、青葉区による三者協定に基づき、大学と地域のお互いの顔が見えるお付き合いができる日常的な取り組みを行い、大学と地域が共に発展・成長する環境を構築する地域共創を理念とする。その実働隊としての学生サークル「まごのてくらぶ」の統括および指導を行う。
- ② 国が示す地方創生事業の担い手として、七ヶ宿町創生事業に係わる計画・立案・実働に関すること。
- ③ 東日本大震災復興支援に係わる事業の計画・立案・実働に関すること。
- ④ 県内の自治体(行政)及び諸団体、NPO法人等との地域共創ならびに支援事業に関すること。

地域の担い手となる人材育成を図りながら上記事業を推進する。概要と実績は以下の通りである。

(ア) 国見地区連合町内会地域共創事業

①地域共創推進連絡協議会

協定に基づく定期的会議。大学と地域が共に発展・成長できる環境を創る「地域共創」の理念に基づき、国見地区における住民の福祉の向上に資するための報告ならびに協議を行った。

第1回開催日：6月6日

場 所：東北福祉大学ステーションキャンパス 演習室1教室

出席者：連合町内会2名、青葉区区民部まちづくり推進課2名、東北福祉大学3名

内 容：議題 1. 平成26年度地域共創推進室事業報告

2. 平成27年度地域共創推進室事業計画

3. まごのてくらぶ組織図について
4. 情報交換

第2回開催日：10月18日

場 所：東北福祉大学ステーションキャンパス 403 教室

出席者：連合町内会1名、青葉区区民部まちづくり推進課1名、東北福祉大学2名

- 内 容：議題
1. 平成27年度地域共創推進室前期事業報告
 2. 平成27年度地域共創推進室後期事業計画
 3. 情報交換

②まごのてくらぶ事業

大学や地域が抱える様々な課題に対し、地域や各種団体と連携し、地域の課題解決を図ることを目的とし、大学から半径1km圏内（国見地区連合町内会）を活動の場としている学生サークル団体である。「地域を知り」「地域に学び」「地域で育ち」「地域に役立つ」を活動理念におき、「自分のことは自分で」「地域のことは地域で」を基本にしながら、ちょっと足りない、手が届かない時のお手伝い、地域の孫の手となり自立支援の促進を掲げ活動をしている。

○支援活動に関すること

支援形態	支援項目	支援日数	活動延人数
個人支援（町内会）	1	11	36
団体支援（町内会）	27	46	383
地域見守り支援（5町内会）	1	79	241
特別支援（災害等支援）	1	1	1
その他の支援（その他の地域等）	4	6	25
合 計	34	143	686

○活動発表等に関すること

まごのてくらぶ共創委員会 6月6日、2月20日

地域共創社会貢献フォーラム 10月18日くにみ街道まつりにおいて実施

③定例諸会議への参加

a. 国見地区連合町内会定期総会および関連団体懇話会

- ・5月24日 国見コミュニティセンター

新町内会長紹介と26年度事業報告、27年度事業計画などの議案を協議

出席者：本学3名、町内会関係31名、関係団体36名

- ・1月9日 東北福祉大学ステーションキャンパス

連合町内会と国見連合町内会にかかわる関連団体との情報交換および

前会長受章祝賀会 出席者：本学4名、町内会関係30名、関係団体44名

b. 国見地区ふくし活動連絡会

3 か月に1度、国見地区に関係する諸団体等による福祉関係全般に関わる直近の状況や報告事項について情報の共有を図る目的として開催。

開催日：4月14日・7月14日・10月13日・1月12日

c. 国見地区東部ブロック六町内会合同防災訓練会議

仙台市の防災事業として避難所運営に必要なさまざまな活動を円滑に行うために、連合町内会等の地域団体、仙台市避難所担当課職員、施設管理者による協働運営のための委員会である。国見地区の指定避難所としては国見小学校および三条中学校であり、今年度は三条中学校においての準備委員会を実施した。開催日：9月16日・10月7日・10月28日

(イ) セツケ宿地域共創事業

国が掲げる地方創生事業の一環として、宮城県内最小人口・最高高齢化率の自治体であるセツケ宿町において、少子高齢化の進行、農林業の不調、町の衰退といった課題先進自治体をまち・大学・民間・町民等が力を合わせて課題解決し地方創生(地域再生)を実現するための企画、運営、実施の一翼を担う。具体的には学習田や学習林を活用した「地域と自然の共創を学ぶ」や「スポーツによる地域活性化事業」など町や町民を巻き込んだ活動を展開している。

○活動実績

実施日	活動名	学生	教職員	地域	合計
5月16日	「地域と自然の共創を学ぶ」田植え	35	8	19	60
6月13日	「地域と自然の共創を学ぶ」水田除草・山菜採取	17	6	11	34
6月20日 ～21日	「スポーツによる地域活性化事業」剣道部合宿	21 (+他6)	8	19	54
7月4日	「地域と自然の共創を学ぶ」水田除草・エゴマ移植	8	5	12	25
9月27日	「スポーツによる地域活性化事業」 セツケ宿町民運動会(中学生集団行動模範演技)	(生徒)36	1	*	37
10月3日	「地域と自然の共創を学ぶ」稲刈り	20	10	18	48
11月21日 ～22日	「スポーツによる地域活性化事業」剣道部合宿	18 (+他1)	7	14	40
2月3日	「地域と自然の共創実習」雪かき	9	4	4	17

(ウ) 震災復興支援に関する事業

東日本大震災に伴う復興支援を本学ならびに企業や各団体と共同実施。

① ナタネによる東北復興プロジェクト

復興庁事業である「北釜地区菜の花プロジェクト」は、津波被害を受けた名取市北釜地区約50haの農地(耕作面積35ha)に菜の花を植栽し、ナタネ油の採取、養蜂家の育成と養蜂による蜂蜜採取、蜂製品の分析・商品開発など6次産業化を創出し、地元農業の再興を目指す官学民一体事業であ

る。また、七ヶ宿町においても菜の花農地選定、養蜂家の育成を同時進行している。2年目を迎えたプロジェクトは80名、31ha(昨年比92%)の契約を交わし、10月に契約更新ならびに耕運・施肥・播種作業を実施。12月4日に地権者説明会を実施した。

②協定、約定書の締結および更新

4月1日「女川町復興ふれあい農園約定書」更新(平成27年4月1日～28年3月31日)

③レクリエーションによる災害・復興支援および会議等

被災地域に赴き、レクリエーション活動を提供し被災者の心身の健康維持、増進に努める。10月10日女川町復興ふれあい交流会

④藤田養魚場生産再生支援

津波によって被災した福島県相馬市にある藤田養魚場の再生復興支援活動
6月23日・30日・7月1日・10月8日に錦鯉の池上げおよび選別作業・
10月19日くにみ街道まつりでの販売支援を実施。

⑤戦略的研究基盤形成支援事業

「被災地域・中山間地でのコミュニティの再生と1次産業の復興」を目的に女川町復興ふれあい農園、新規レンガの製造に関すること。

4月16日～10月29日 レンガ焼成実験(全8回)

5月10日 遠野市において新規レンガ開発における原料調査、採取ならびに業者ヒアリング

8月2日～7日愛知県瀬戸市での遠野産原料によるレンガ成形作業

9月4日～7日女川町復興ふれあい農園にバーベキュー窯、ピザ窯を設置

10月10日女川町復興ふれあい農園でのレンガ組み立て窯によるピザ等試作提供

⑥福祉系大学経営者協議会復興支援委員会

4月19日・5月15日・11月3日 文京学院大学

(エ)自治体(行政)及び諸団体、PNO法人等との地域共創ならびに支援事業に関する事
各種団体等より委嘱を受け構成員としての諸会議への出席、支援活動を通し
地域共創および活性化に寄与することを目的とする。

①宮城県レクリエーション協会総会、役員会、日本レクリエーション協会の主催行事への参加出席

②レクリエーションインストラクター指導者養成講習会…3回(5日間)、
3月12日(防災・減災レク)

③塩釜市地域安全まちづくり推進会議…5月19日、10月20日、1月19日

④富谷町健康フェスティバル…10月22日、10月30日、11月4日、11月5日

⑤青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会…5月14日、7月3日、
9月25日、11月16日、3月7日・11日

- ⑥利府町社会福祉協議会連絡会議・・・5月29日、8月4日
- ⑦石巻市社会福祉協議会会議・・・5月22日、9月1日
- ⑧女川町社会福祉協議会連絡会議・・・4月21日、3月29日
- ⑨国見地区ネットワーク会議・・・5月26日
- ⑩認知症対策会議・・・7月21日、8月21日、9月17日
- ⑪宮城野区まちづくり推進会議・・・8月26日、10月6日、10月20日

(3) 臨床心理相談室

臨床心理相談室は、下記の2点を目的に活動している。

- 市民を対象に臨床心理学のアプローチによりこころの健康の回復、維持、促進を行う。
 - 総合福祉学研究科福祉心理学専攻臨床心理学分野の大学院生に指導教員の基で相談実習を行うことにより、将来の臨床心理士の養成を行う。
- 事業の概要と実績は以下の通りである。

【事業の概要】

我々は複雑な現代社会で生きていく上でいろいろな悩み、葛藤、ストレスを受けている。そこで、臨床心理相談室は、一般市民を対象にこころの健康の回復、維持、増進のために臨床心理相談を行っている。対象は、子どもから成人までである。相談内容は、不登校、いじめ、チック、引きこもり、親子関係・夫婦関係、うつ、パニック障害傾向等、相談内容は幅広い。

【実績】

- 開室期間：月曜日から金曜日まで、午前10:00～午後6:00まで開室。（年末年始、お盆の時期は除く）
- 相談人数：約330名（延べ人数）、大学院生の担当数：約70件

(4) 次世代育成支援

次世代育成支援室は、わが国の将来を担う子どもの健全な育成のため、乳児期から学童期を中心とした子育て・子育て支援、発達支援にかかる事業を行う。

同時に、本学学生、特に看護師、保健師、保育士、幼稚園・小学校教諭等を目指す学生のための実学・実践教育（学生教育事業）と、上記目的を達成するための研究開発事業を行う。

(ア) 主たる事業

- ①次世代育成事業（対象：乳幼児の養育者、乳児、幼児および児童）
- ②児童に対する科学ものづくり教室事業（対象：児童、児童の養育者、地域住民）
- ③学業不振児童に対する補習教育事業（対象：児童、地域住民）
- ④法人連携・地域連携事業（対象：養育者、地域住民等）
- ⑤学生教育事業（対象：学生スタッフ）
- ⑥上記事業に関連する調査研究事業

(イ) 次世代育成支援室における主たる事業の実施状況

①次世代育成事業

a. 親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”

平成 27 年 10 月に標記講座（4 回シリーズ）の開催を予定していたが、応募者が最低開催人数（※）に満たなかったため開催を見送らざるを得なかった。平成 28 年度は、仙台市保健福祉センター及び子育て支援団体とのタイアップを図るとともに講座の開催時期及び周知方法を検討のうえ、開催予定である。

②児童に対する科学ものづくり教室事業

今年度は都合により実施できなかった。

③学業に困難を抱えた児童に対する補習事業

教育困難を抱えた児童を中心に 8 名の小学生（6 年生 2 名）を対象として、5 名の学生（1 名の学外協力者）が分担して各児童の担当となり、主に算数や国語あるいは社会や理科といった教科の既習内容を復習する形で学習支援を行った。学習活動実施回数は 13 回（うち 1 回は学園葬のため中止）。学生スタッフのミーティング開催回数は 4 回。のべ参加児童数は 23 名。また、のべ参加学生スタッフ数（ミーティング含む）は 51 名。

④法人連携・地域連携事業

a. 親子遊び「はっぴーらんど」および育児講座

国見ヶ丘せんだんの杜保育園子育て支援センターと共催で、乳幼児およびその養育者を対象とした親子遊び「はっぴーらんど」および育児講座を開催した。親子遊び「はっぴーらんど」の開催数及び登録者数（のべ）・利用者数（のべ）は、第Ⅰ期（5 月～8 月）が 30 回、69 名・531 名、第Ⅱ期（8 月～11 月）が 29 回、64 名・480 名、第Ⅲ期（12 月～3 月）が 23 回、63 名・397 名であった（合計：開催数 82 回。登録人数：196 名（のべ）。利用人数：1,408 名（のべ））。育児講座は、「子育て Q & A」の開催数及び利用者数は 1 回・4 名、「チャイルドヨガ」の開催数・利用者数（延）は 3 回・55 名、「英語で遊ぼう」の開催数及び利用者数（延）は 6 回・85 名であった。回数を重ねるごとに子ども、養育者、職員との親睦が深まっていく姿が見受けられており、事業の成果もあがっていることから、平成 28 年度においても活動を継続していきたい。また、⑤学生教育事業として、これらの活動に学生スタッフが参画できるようにシステム構築を行う予定である。

b. 「Future 子育てへの提言 - 子育ての疑問・質問」（月刊「ままばれ宮城版」（東北放送、メディアパレット発行）への連載（1 回/月）

読者から寄せられた子育ての疑問・質問について、2 題/月を担当し

回答を連載した。読者からは、質問内容及びそれらへの回答が安心感につながるとの評価を得ている。

c. 地域における子育て支援団体等との協働

地域において活動中の子育て支援団体の支援として、落合保育所子育て支援センター「育児講座」(10月31日)、宮城ホームスタート連絡協議会「子育て世代包括支援研修会」の講師を担当した。国見ヶ丘せんだんの杜保育園ホームスタート事業トラスティを担当した。

⑤ 学生教育事業

- a. ④a. の親子遊び「はっぴーらんど」及び育児講座に対する学生スタッフの参画について、国見ヶ丘せんだんの杜保育園園長及び子育て支援センター担当保育士と協議を重ね、システム構築を図った。平成28年度より、学生スタッフの参画を開始し、実践活動そのものだけでなく、学科を越えた協働の実践的学習の場も提供していきたい。
- b. ③の補習事業にて、活動日における子どもたちの支援内容の振りかえりおよび支援法の提案などについて話し合いをスタッフミーティングとして6回行った。その中では、全体活動として行った「月の形」の授業プランについての検討会および改善点等を話し合った振りかえりも実施した。

⑥ 研究開発事業

- a. ③の補習事業において、小学校6年理科の単元にある「地層」の学習支援として石を砕いて磁石をつけ砂鉄を取り出すという活動について、「“白い砂鉄ってあるんですか？”と聞かれた驚きと楽しさ～砂鉄に注目する「歩き始めの地質学」～」という論考(極地方式研究会 デポ No. 147 2015. 7.)をミーティングでスタッフと読み、身近な石、磁石、砂鉄などを「地質学の第一歩」とすることの大切さを話し合った。また、セロテープを貼ったOHPシートを2枚の偏光板で挟むとセロテープがまさにさまざまな色に変化することを利用して考案した「偏光板を使った新型万華鏡」を子どもたちとスタッフ全員で作成した。その様子も含めて「進化した！ 偏光板を使った新型万華鏡」というタイトルで「極地方式研究会 デポ No. 149. 2015. 11.」に発表した。
- b. 「看護大学生における実践的学習による教育効果」をテーマとした研究のデータ整理及び分析を行った。分析は平成28年度も引き続き行う予定である。

(5) 予防福祉・健康増進の推進

社会貢献センター予防福祉健康増進推進室では、「自分に合った健康をデザインする」をテーマに、設立以来、さまざまな健康増進プログラムを通して“地域

の皆さんの元気づくり”を支援している。

事業名	内容	通年実績
本学生実学および実習受入れ	●実学実習教育（4年生3名、3年生1名、2年生4名、1年生6名） ●演習・実習	348日、562名 52日、529名
人材養成（アート系） 対象：隣県を含む一般市民	●臨床美術士5級養成講座 ●臨床美術士4級養成講座	3講座、 124名参加
人材養成（フィットネス系） 対象：隣県を含む一般市民、本学の学生	●ノルディックウォーキングA L養成講座 ●ノルディックウォーキングB I養成講座 ●メディカルフィットネス講座	8講座、 138名参加
イベント・公開セミナー 対象：隣県を含む一般市民、本学の学生	●元気健康セミナー・塾生交流会	9回、 574名参加
健康教室（アート系） 対象：隣県を含む一般市民	●脳いきいき臨床美術 ●こしえっと ●親子deアート ●子まごtoアート	50回、 272名参加
健康教室（フィットネス系） 対象：隣県を含む一般市民	●生涯筋造フィット ●健康づくりはじめの一步 ●元気ハツラツ！チャレンジ教室 ●Let's ロコモ予防教室 ●ニギニギ玄米ダンベル ●健脚骨太 ●ストレッチボール教室 ●スマイルステップ1・2・3 ●今からはじめる運動いろは ●のんびりゆったりNW ●アクティブNW ●NW体験会 ●土曜ダンベル ●ダンベル入門 ●パーソナルトレーニング	637回、 7,453名参加
自治体受託事業 （健康増進・介護予防教室） （地域サポーター養成講座） 対象：各自治体の地域在住高齢者	●仙台市 将監地域包括支援センター 介護予防教室（全1回） ●仙台市 NW事業 サークルズサークル練習会（全2回） ●仙台市 いきがい健康祭（全1回） ●仙台市 いず☆ちゅう健康祭（全1回） ●仙台市 NW体験会（全1回） ●仙台市 サークルフォローアップ研修会（全1回） ●仙台市 教育委員会 学校給食従事者向け研修会（全1回） ●仙台市 宮城西市民センター 老壮大学 CA体験会（全1回） ●仙台市 青葉区保護第一保護第二職場研修（全1回） ●仙台市 介護予防プログラム強化事業（全5回） ●山元町 運動普及事業（メタボ予防教室）（全3回） ●山元町 運動普及事業（運動リーダー向け研修会）（全1回） ●亘理町 運動支援事業（健康ダンベル基礎講座）（全1回） ●亘理町 運動支援事業（運動サポーター育成研修会）（全1回） ●大衡村 食生活改善推進員研修会（全1回） ●塩釜市 スクエアステップ講習会（全1回） ●塩釜市 男性の運動教室（全1回）	24件、のべ70回

	<ul style="list-style-type: none"> ●登米市 スポーツ推進委員研修会 (全1回) ●宮城県 運動による絆づくり事業 (全7回) ●浪江町 イベント交流会 (全1回) ●浪江町 運動支援リーダー養成事業 (全10回) ●浪江町 ダンベル・ロコモ予防教室 (全14回) ●岩手県 健康国保課 運動指導者研修会 (全1回) ●岩手県 国民保険団体連合会保健推進委員研修会 (全1回) 	
外部イベントへの出展・参加	<ul style="list-style-type: none"> ●4月 「元気！健康！フェア東北」仙台市ほか主催ブース出展 ●10月 くにみ街道まつり ●11月 仙台市介護予防月間 ●2月 女川被災地支援プロジェクト 実学生がダイナミック琉球群舞披露 	4件
外部研修等の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ●4～7月 ラウレア応用大学より留学生受入れ 1名(計335時間) ●5月 エドモントン大学施設見学 1名 ●7月 ラウレア応用大学施設見学 3名 ●8月 水野先生寝袋評価に関する研究 11名実施 ●8～9月 保健看護学科 実習受入れ 5名(4日間) ●9～10月 医療経営管理学科 リエゾンゼミ受入れ 62名(17日間) ●10月 田邊素子先生ゼミ生 6名施設見学 ●10月 渡部芳彦先生ゼミ生 4名施設見学 ●12月 福祉心理学科1年 リエゾンゼミ アンケート調査 20名実施 ●1月 ケアパートナー(株) 視察 5名 ●3月 ラウレア応用大学施設見学 1名 	のべ119名

(6) 鉄道交流ステーション

○鉄道歴史資料室「鉄道交流ステーション」

以下の2点を基本方針として事業を実施した。

- ・東北各地の鉄道に関する資料を収集・保存・公開して研究に寄与する。
- ・地域の歴史文化を理解し大切にすることを育む場として、学生のみならず、地域貢献の一環として、一般市民に大学施設の一部を公開する。

事業の概要と実績は以下の通りである。

(ア) 展示公開事業

①企画展の開催

東北福祉大学前駅のある仙山線を中心に東北地方の鉄道発展の歴史や、広く鉄道文化にまつわる資料の紹介に努め、鉄道各社や愛好家の方々の協力のもとに年に3回の企画展を実施している。

【実績】

企画展1: 2015年4月7日～7月4日

第24回企画展「鉄道の復興 その時、今、あした 第I期 早期全線

復旧への軌跡「民鉄（三陸鉄道・仙台空港鉄道）と貨物（JR貨物・仙台臨海鉄道）」開催日数61日、入館者2,539人(1日平均41.6人)、無料
企画展2: 2015年8月4日～11月7日

第25回企画展「鉄道の復興 その時、今、あした 第Ⅱ期 鉄道の復旧と思いをつなぐ町づくり-JR石巻線と女川町、JR仙石線と東松島市、JR常磐線と山元町・新地町-」開催日数61日、入館者3,101人(1日平均50.84人)、無料

企画展3: 2015年12月1日～2016年3月5日

第26回企画展「東北の鉄道愛好家シリーズⅢ 瀬古龍雄と仙臺の鉄道昭和25年～28年を中心に」開催日数55日、入場者2,373人(1日平均43.2人)、無料

(イ) 教育普及事業

鉄道文化をより深く理解していただくため、企画展にあわせて模型運転会や講演会を開催している。さらに、校外学習の受け入れ、各種研修会等での見学受け入れをしている。また、中学生から大学生までを対象とした鉄道フォトコンテストの実施や、地域の鉄道文化・歴史の書籍化する事業として鉄道交流ブックレットを発行している。

【実績】

- ・企画展関連事業・講演会「鉄道の復興 その時、今、あした」
第Ⅰ期 5月23日 午後1:00より開催 参加者数 87名
会場：東北福祉大学ステーションキャンパス館 300教室
講師：富手淳氏（三陸鉄道旅客サービス部部长）、
横田重雄氏（元JR貨物東北支社長、元仙台臨海鉄道社長）
 - 第Ⅱ期 10月10日 午後1:00より開催 参加者数 60名
会場：東北福祉大学ステーションキャンパス館 301教室
講師：五十嵐一博氏（東日本旅客鉄道前仙台運輸区長）、
丸山哲夫氏（東日本旅客鉄道本社安全企画部）、
石川文雄氏（東日本旅客鉄道東北工事事務所）
 - ・図録「仙山線交流電化試験-日本の鉄道を新幹線へと導いた開発秘話-」の一頒布開始（6月）
 - ・第7回「鉄道交流フォトコンテスト」（7月～10月、応募数44、グランプリ1、優秀賞2、特別賞1、入選10）
 - ・ミニSL運転会（10月18日 くにみ街道まつりにて）
 - ・五戸町教育委員会施設見学受け入れ（10月3日）
 - ・山形・仙台広域交流推進協議会の研修受け入れ（10月22日）
- その他、小中学校の校外学習、市民センター講座等の見学は随時受け入れ

(ウ) アーカイブ事業

地域に残る鉄道資料の散逸が懸念されるなか、その資料の体系的収集と保存は当資料館の責務であり、持ち込み例も多いが、資料の保管場所の確保と人手不足のため、なかなか資料整理が実施できないことがいちばんの課題である。今年度は倉庫としていた球心寮の使用ができなくなり、急遽、感性福祉研究所の機械室倉庫の一角に資料を引っ越して倉庫として使用させていただいたが、整理は追いついていない状況である。

(エ) 法人連携・地域連携事業

本資料室が収集・収蔵した資料情報は、地域の歴史資料として、一定のルールのもとに他の機関・法人の展示事業や制作物等へ提供協力している。また、今年度から仙台宮城ミュージアム・アライアンス（SMMA）に参加し、他ミュージアムとの連携を取りながら普及・広報の場を広げている。

【実績】

- ①SMMA ミュージアムユニバースへの参加（12月18・19日 会場：せんだいメディアテーク）
- ②東北電力主催 グリーンプラザ「東北文化情報コーナー」展示企画『仙台鉄道物語』の共催（2015年11月10日～2016年1月11日 会場：東北電力ビル・グリーンプラザ）
- ③仙台市歴史民俗資料館・特別展『仙台のまちと近代交通』への資料提供（11月14日～4月17日）
- ④NHK 総合仙台「ひるはび」への写真提供（5月28日）
- ⑤NHK 総合「50 ボイス～仙石線復興ボイス～」への写真提供（6月27日、7月3日再放送）
- ⑥仙台商工会議所月報「飛翔」への写真（12月号）
- ⑦東部市民センター主催「東仙台・新田・苦竹の鉄道景観を活かした街づくりプロジェクト」第3回フォトコンテストへの協力
- ⑧一ノ関博物館『開業90周年大船渡線～ドラゴンレールの謎を解け！～』への協力
その他、企画展関連で、河北新報、朝日新聞、交通新聞、物流ニッポン、河北ウィークリー等の取材にも協力し、記事掲載をしていただいた。また、情報誌、ガイドブック等への情報提供にも対応している。

(オ) その他

本学・鉄道交流ステーションは、「鉄道を中心とした近代交通史に関する博物館等での展示や各種資料の保存活動において、優れた功績を残し社会に貢献したもの」とする功績が認められ、平成27年度の「鉄道史学会住田奨励賞特別賞」を受賞した。

○鉄道模型館「TFU スカイトレイン」

以下の2点を基本方針として事業を実施した。

- ・鉄道模型の展示・運転を通して、国内・海外の鉄道の違いや、鉄道の歴史・仕組みについて知る機会となるよう、市民、特に子どもたちが関心高められる教育プログラムを提供する。
- ・地域に住まう鉄道愛好家や鉄道OBの豊富な知識と時間をかけて集めた模型コレクションを披露してもらいつつ、そのこと自体を資源と捉え、地域の市民への教材として還元してもらおう質の高い市民参加型のミュージアム事業の確立。事業の概要と実績は以下の通りである。

(ア) 展示公開事業

- ① 定期開館日（企画展開催日のうち土曜日、11：00～16：00）

【実績】

- ・定期開館日の運転会（1月29日現在） 運行日数 30日
メルクリン車両・1日あたり平均運行編成数 15.1列車/日
日本車両・1日あたり平均運行編成数 10.9列車/日
*基本的にボランティアの持ち込み
入館者総数 2018名（うち、小学生以下：602名、一般：1227名、ボランティア189名）
入館者平均人数 65.6名（うち、小学生以下：20.0名、一般：39.3名、ボランティア6.3名）

- ② 定期開館日以外の運転会 運行日数 2日

- ・「くにみ街道まつり」のための臨時開館 10月18日、入館者489名
- ・国見祭のための臨時開館 10月25日、入館者32名

(イ) 教育普及事業

鉄道模型の特色や効果を活用しワークショップやイベントなどの教育普及に取り組みたいが、ボランティアのみの運営でなかなか計画が立てられないのが現状である。今年度は10月に週替わりの特集を実施した。

【実績】

- 10月3日「SL時代の列車」、10月10日「気動車時代の列車」
- 10月17日「貨物列車」、10月18日「仙山線&仙石線」
- 10月24・25日「東北本線仙台盛岡電化50周年にちなんで」
- 10月31日「特急・新幹線時代の列車」

(ウ) 法人連携・地域連携事業

学校や市民センターなどの生涯教育機関からの要請をうけ、土曜日以外の日に臨時開館をおこなっている。

(エ) その他

館長、および、ボランティアスタッフの手でレイアウトの補修・増築を重ね、新しい路線を加えた。

9. 国際交流に関する事項

国際交流センターは、

- ①本学学生の留学・海外研修や国際交流活動を促進し、これらの活動を積極的に支援するとともに、国際交流に関わる様々な情報提供や相談業務を行い、グローバル社会で活躍できる人材の育成に寄与する。
- ②本学の外国人留学生の学生生活を支援し、日本文化・日本語教育に関わる学習面での環境を整え、留学目的が達成できるようサポートを行う。
- ③国際学術協定の締結および内容を充実させることにより、教員間・学生間の学術交流を促進し、それに関わる情報提供および支援を行い、大学の国際化に寄与する。

の3点を目標に活動し、事業内容は、①交換留学（派遣・受入）、②短期留学・研修（派遣・受入）、③本学における国際交流事業全般、④その他の国際交流に関する事業の支援である。

(1) 平成27年度交換留学・短期留学研修・学術交流 実績

(ア) 国際交流協定に基づく交換留学・研修・学術交流（派遣・受入）実績（国別）

①大韓民国 翰林（ハルリム）大学

派遣：1. 交換留学（平成28年3月～平成29年2月、1年）1名

2. 韓国文化研修（平成27年8月19日～26日、1週間）13名

受入：社会福祉学部インターンシッププログラム（平成28年1月31日～2月28日、1ヶ月）5名、引率教員1名 ※東北福祉会受入、国際交流センター協力

②スロベニア リュブリャナ大学

派遣：スロベニア研修（平成28年2月24日～3月28日、1ヶ月）4名、引率教員1名 担当：言語文化交流推進室

③フィンランド ラウレア応用科学大学

派遣：交換留学（平成26年9月～平成27年8月、1年）2名

受入：交換留学（平成26年度から延長。平成27年7月まで）1名

④ロシア クラスノヤルスク国立教育大学

派遣：交換留学（平成27年9月～12月、3ヶ月）1名

⑤中国

受入：1. 大連大学交換留学（平成27年4月～平成28年3月、1年）2名

2. 東北師範大学（平成27年9月～平成28年8月、1年）4名

3. 東北師範大学人文学院教員受入 2名

目的：社会福祉および介護に関する研修・研修

教員：田 野先生 社会福祉学部受入

平成27年10月1日～平成28年3月、その後1年延長

劉 純先生 社会福祉研究科受入 平成 27 年 1 月～

(イ) 協定校以外の大学との短期留学・研修（すべて派遣）実績

①アメリカ ワシントン大学夏期留学プログラム

期間：平成 27 年 7 月 23 日～8 月 21 日（4 週間）3 名

②オーストラリア シドニー大学英語研修（同意書契約）

期間：平成 27 年 8 月 5 日～30 日（3 週間）13 名

③イギリス a. レディング大学英語研修（幼保、小学校課程対象）（同意書契約）

期間：平成 28 年 2 月 13 日～3 月 4 日（2 週間）9 名

b. オックスフォード大学英語研修（健康科学部対象）（同意書契約）

期間：平成 28 年 3 月 13 日～3 月 28 日（2 週間）16 名

(2) 平成 27 年度訪問受入実績（国別）

①イギリス レディング大学、ブルース・ハウウェル先生訪問

期日：4 月 2 日 目的：「レディング大学英語研修」実施の打ち合わせ

②カナダ エドモントン・コンコルディア大学、ソン・サンドラ先生訪問

期日：4 月 22 日 目的：両大学との学術・学生交流協定について

③中国 東北師範大学人文学院

1. 氏名：呂英華（院長）、李娟（国際交流センター副センター長）

期日：10 月 27 日 目的：学生編入、教員受入・派遣、新規研修等についての協議

2. 氏名：穆 樹源（理事長）、橋本親往（日本語教員）

期日：1 月 23 日、目的：前萩野学長学園葬

④大韓民国 翰林（ハルリム）大学

氏名：尹賢淑（ユン ヒョンスク）社会福祉学部教授、韓国社会福祉学会会長

梁桂花（ヤン・ケファ）駐仙台韓国総領事館総領事

期日：1 月 23 日、目的：前萩野学長学園葬

(3) 平成 27 年度その他の業務及び外部事業への参加報告

①留学生ガイダンス及び連絡会（年間 3 回）

②外国人留学生寮（国見寮、千代田寮）の手続き及び管理（総務と連携）（通年）

③外国人留学生の査証申請（適宜）

④外国人留学生奨学金手続き（適宜）

⑤外国人留学生課外活動（アルバイト）の管理・確認（通年）

⑥私費外国人留学生学費等減免手続き（5 月～8 月）

⑦第 2 回「外国人住民を対象とした防災教育・訓練」（総務部災害対策課）（5 月）

⑧国際交流センター主催「留学生交流会」（9 月）

⑨日本人学生と留学生の交流芋煮会（30 名参加）（10 月）

⑩外国人留学生地域文化体験「蔵王樹氷めぐり」（15 名参加）（12 月）

⑪2015 年女子留学生日本語弁論大会 2 名出場（7 月）

参加者：孫 楓楓（ソン フーフー）中国大連大学交換留学生（努力賞）

李 春慧（リー シュンエイ）中国大連大学交換留学生（努力賞）

⑫「仙台・まちの魅力協働発信プロジェクト」参加（8月、9月）

主催：仙台青年会議所 参加者：2名

目的：仙台在住の若者と外国人が、仙台の歴史や文化を学び、共にその魅力を発信し、世界から愛される都市「仙台」を目指す。

⑬中国政府招請事業「2015 日中友好大学訪中」

主催：公益社団法人日中友好協会 参加者：2名

目的：日本の大学生が中国の生活文化に直接触れ、中国の大学生と交流することによって、相互理解を深め、互いの国をより客観的に理解することを目的とする。

⑭第13回ハワイ・ソーシャルワーク・セミナー（2月13日～28日）参加学生：2名

主催：公益財団法人ユニバーサル財団、ハワイ大学ソーシャルワーク学部、ナ・レイ・アロハ財団

目的：1)「アロハ精神」「オハナ」等、ハワイ独自の文化を基盤に実践されているソーシャルワークの概要を学習する

2)ソーシャルワーカーという専門職の実際を見聞きし、その精神とあり方を体験的に学ぶ

3)ハワイの地域住民とのふれあい等を通して異文化を体験し、効果的なコミュニケーション・スキルを学ぶ

4)講師や日本人メンターとの交流・参加者同士の支え合いにより学習の理解を促進する

10. 災害対策

本学学生及び教職員の防火・防災意識の向上と災害発生時の対応力強化を目的に学内の大規模訓練、各種防火・防災訓練の実施、本学の地域性も考慮した外国人住民や地域住民と連携した防災訓練の開催や行政等が行う各種訓練、消防大会への参加も行った。また、ボランティア支援課と共に豪雨災害におけるボランティア活動も実施した。

(1) 大規模訓練の実施

(ア) 大規模防災訓練の実施（国見キャンパス）

1年生のリエゾンゼミ講義(防災・減災教育)時間を利用し、防災訓練として発災後に想定される、環境変化に対する順応性を重視した体験型訓練①工具等使用・発電機起動体験訓練②心肺蘇生・AED 操作体験訓練③炊き出し体験訓練④濃煙体験・消火器体験訓練⑤ロープワーク・ジャッキアップ体験訓練⑥避難シミュレーション体験訓練⑦テント設営体験訓練を行った。また同時に

本学が導入している安否確認システムの運用訓練も実施し、訓練にあつては学生防災士、救命救急士課程学生、学生救命サークルの協力も得て実施した。

実施日 平成 27 年 9 月 30 日

学生参加者	1430 名
教職員参加者	116 名
学生防災士	5 名
FAST(学生サークル)	5 名
救急救命士養成課程学生	27 名
訓練参加者総数	1583 名

(イ) 外国人住民を対象とした防災教育・訓練の実施

本学と(公)仙台市国際観光協会と共催により平成26年度に続き第2回目の外国人の住民を対象とした防災訓練をステーションキャンパスにおいて実施した。

実施日 平成 27 年 5 月 16 日

外国人住民	50 名 (本学留学生 10 名含む)
仙台市国際観光協会	15 名
学生防災士	50 名
FAST(学生サークル)	5 名
大学職員数	13 名
仙台市消防他関係者	22 名
国見地区連合町内会	1 名
計	156 名

(訓練内容)

消火器訓練、濃煙体験訓練、119 番通報訓練、炊き出し訓練、AED 操作訓練、避難シミュレーション訓練、倒壊家屋救助訓練、多言語防災ビデオ上映、仙台市防災アドバイザーによる講演

(2) 各施設の消防避難訓練の実施

けやきホール(音楽堂)	平成 27 年 6 月 17 日
学生寮喜心寮	平成 27 年 7 月 17 日
仙台駅東口キャンパス	平成 27 年 11 月 30 日
ステーションキャンパス	平成 28 年 2 月 23 日
ウェルコム 21・感性福祉研究所	平成 28 年 3 月 9 日
図書館	平成 28 年 3 月 29 日

(3) 大学の防災対応力の強化

災害発生時の学内使用燃料確保のため平成 26 年 4 月 22 日付(株)アベキとの燃料等(ガソリン・灯油、軽油、重油)の確保に関する協定の継続また心肺蘇生や AED 操作が行える普通救命資格者を養成するための指導を行える応急手当

普及員資格者の習得（資格者数 10 名から 8 名増員 計 18 名）を行った。

(4) 安否確認訓練の実施

本学が導入している学生・教職員の安否確認システム運用訓練を実施した。

（第 1 回）平成 27 年 5 月 11 日（三陸沖震度 5 強地震発生時）

（第 2 回）平成 27 年 9 月 31 日（大規模防災訓練時）

(5) 学内各キャンパスにおける放射線量の測定・公表

東日本大震災以降から毎月測定を行っている、学内の放射線量の数値の情報を大学ホームページ上での公開を引き続き行った。

(6) 防災教育等の実施

一般学生、救急救命士養成課程学生、学生防災士・教職員等に対する防災教育の場を提供することを目的に各種訓練への参加、協力及び災害復旧のボランティア活動を行った。

仙台市帰宅困難者対応訓練への参加	平成 27 年 9 月 1 日
仙台市青葉地区消防訓練大会への参加	平成 27 年 9 月 2 日
（救急救命の部 男女 2 名参加、女性職員優勝、男性職員準優勝）	
救助・救命訓練への参加	平成 27 年 9 月 7 日
宮城県豪雨災害復旧ボランティア活動	平成 27 年 9 月 17～20 日
国見東部 6 地区町内会防災訓練への参加	平成 27 年 10 月 31 日
大学祭参加学生に消火器操作訓練実施	平成 27 年 10 月 22 日

11. 付随事業に関する事項

(1) 附属病院「せんだんホスピタル」

せんだんホスピタルは、地域社会に対する良質な医療の提供、福祉系大学としての充実した教育・研究の実施、及び学生の臨床実習による良質な医療人の育成を目指し平成 20 年 6 月に開院した。主な診療機能として、病床数は 144 床、診療科は精神科、児童精神科、神経小児科、内科の四科を標榜し、特診外来として児童思春期外来を設け東北地方では初となる児童思春期専門の子供専門病棟を有している。さらに、包括型地域生活支援部門を備え、専門医や精神保健福祉士、作業療法士、看護師がチームを組み、積極的に在宅訪問する包括的サービスを 365 日、24 時間体制で提供している。平成 21 年度から入院中の中学生に対する教育の場として病弱・身体虚弱特別支援学級としての「院内学級」を開設して教育上の利便性を担っている。また、本学が養成している臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士、看護師、医療事務の臨床実習の場として学生を受け入れた。

教育研修関係は、患者及びその家族を対象とした精神疾患に関する正しい知識を理解していただく「家族心理教育」を 7 月から毎月 1 回（計 8 回）2 月まで開催した。また、地域住民を対象とした好評の公開研修会（認知症の人を理解する）

を10月に開催した。27年度の主な指標は以下のとおり。

◎ せんだんホスピタル診療指標（平成28年3月末現在）

	当院の状況	他の精神科病院の状況
(患者の状況)		
平均病床数	144 床	284.9 床
平均在院日数	107.2 日	273.5 日
入院外来比	1.06	0.32
新患率	3.9%	2.4%
入院1日平均患者数	91.0 人	257.1 人
外来1日平均患者数	96.1 人	82.9 人
入院1人1日当たり収益	20,222 円	15,452 円
外来1人1日当たり収益	12,792 円	9,944 円

注) 他の精神科病院は、独立行政法人福祉医療機構が調査した全国 291ヶ所の26年度のデータ。

◎ せんだんホスピタル臨床実習の状況（平成28年3月末現在）

臨床心理士受入延数	54名
精神保健福祉士受入延数	240名
作業療法士受入延数	251名
看護師受入延数	1,035名
養護教員受入延数	97名
医療事務受入延数	80名
計	1,757名

(2) 東北福祉看護学校

本校は通信制2年課程の看護師養成校（入学定員250名）として平成20年4月に開校。平成27年4月時点の在籍者は、合計379名（1年生180名、2年生199名）である。

学校名	東北福祉看護学校
開設年月	平成20年4月
内容	通信制2年課程 准看護師から正看護師へ
対象学生	准看護師としての経験10年以上
入学定員	250名
在籍者数	379名（H28.2/1時点では370名）

12. 仏教専修科関係

曹洞宗教育規程に基づき、本学に仏教専修科を置く。在学中に無試験で二等教師

の補任の資格を得させるために本宗子弟に対して宗門の教師として必要なる事項について修得させる。

(1) 開講式 4月15日 17:50～ 法堂にて

開講諷経 導師：斉藤仙邦、維那：櫻井大文、堂行：石田信孝
両班：萩野寛雄、佐藤泰伸、高野賢幸、坂本孝温、桑名秀明、
深瀬俊路、半崎義宗

※仏教専修科講義開始 4月16日（木）～ 各教室にて

※仏専学生女子は特別コースとして、小笠原礼法を習得するべく道庵にて学習した。

(2) 降誕会法要 6月3日 8:50～ 大教室にて

お釈迦様の誕生を祝う「降誕会」が、月遅れの6月に大教室を会場に厳修され全学部新入生全員で「般若心経」を読経した。併せて東日本大震災物故者供養も行い、故人の冥福を祈った。

- ・降誕会諷経 導師：斉藤仙邦、維那：櫻井大文、堂行：石田信孝
両班：萩野寛雄、佐藤泰伸、高野賢幸、坂本孝温、深瀬俊路、半崎義宗

(3) 施食会法要 8月5日 9:00～16:00 各関連施設にて

仏教社会福祉活動の一環として、本学関連施設にて「施食会法要」と「法話」を実施した。仏専学生および教職員における社会活動の一環として、本学関連施設における施食会法要（お盆供養）及び法話を実施した。

・せんだんの里 ※参列者 30名

導師：坂本孝温、法要解説：斉藤仙邦、維那・堂行：佐藤泰伸、
両班等：小林信眼、小野太夢、山本顕信、水野安人

・せんだんの丘 ※参列者 65名

導師：萩野寛雄、法要解説：川村昭光、維那・堂行：半崎義宗、
両班等：千葉尚哉、天野大芳、鈴木竣也、齋藤弘宗

・せんだんの館 ※参列者 55名

導師：斉藤仙邦、法要解説：坂本孝温、維那・堂行：佐藤泰伸、
両班等：小林信眼、小野太夢、山本顕信、水野安人

・せんだんの杜 ※参列者 48名

導師：川村昭光、法要解説：萩野寛雄、維那・堂行：半崎義宗、
両班等：千葉尚哉、天野大芳、鈴木竣也、齋藤弘宗

(4) 「猿まわし」公演 6月8日 12:00～ 国見キャンパス中央広場にて

「人間と自然の共生の可能性を探るプロジェクト」として伝統芸能の猿まわしの公演を行った。山口県を拠点に全国を回っている「猿舞座」の村崎耕平氏がオス猿の夏水を巧みに操り輪くぐりなどの芸を披露した。猿舞座はムチなど使わず時間をかけて猿と信頼関係を築き、芸を仕込む手法「本仕込み」をとっている。「異なる世界の人たちとの付き合い方を学ぶのに参考になるのではない

か」と招いた。

(5) 両祖忌法要 9月29日12:00～ 法堂にて

道元禅師は建長5年(1253)8月28日54歳でお亡くなりになられ、瑩山禅師は正中2年(1325)8月15日58歳で亡くなられた。この日はいずれも太陽暦換算で9月29日となることから、お二人を偲んで恩に報い一層の精進を誓う儀式として両祖忌という法要が営われた。

- ・両祖忌諷経 導師：石田信孝、堂行：半崎義宗、維那：櫻井大文
両班：斉藤仙邦、萩野寛雄、佐藤泰伸、高野賢幸、川村昭光、坂本孝温、深瀬俊路

(6) 臘八接心 12月6日～8日 坐禅堂・法堂にて

本学では、12月6日～8日の3日間仏教専修科を主体として厳修された。

(7) 成道会法要 12月8日12:00～ 法堂にて

12月8日は、お釈迦様の『おさとりの日』。正しい法を覚り仏陀(覚者)とされた日、そして人間の歩む正しい道はこれであると徹底された日。宗門大学の一員として、この日を永く記念し『成道会』を修行し、お釈迦様のおさとりを偲び、反省と希望に勇気を奮い起こすようにと行われた。

- ・成道会諷経 導師：斉藤仙邦、堂行：石田信孝、維那：櫻井大文
両班：萩野寛雄、佐藤泰伸、高野賢幸、半崎義宗

(8) 安居説明会

両大本山より講師を招き安居(修行)について説明を受け、質疑応答をしながら安居についての理解を図った。

大本山永平寺 12月16日17:50～ 講師 大本山永平寺 副悦 谷口慈芳氏

大本山總持寺 12月16日18:30～ 講師 大本山總持寺 維那兼講師 高屋継仁氏

(9) 涅槃会法要 2月13日12:00～ 法堂にて

お釈迦様のご命日である涅槃会の日には、全国各地の寺院でお釈迦さまの最期の様子を描いた「涅槃図」を掛けて、そのご遺徳をしのぶ法要が行われ、本学でも行われる。

(10) 東日本大震災犠牲者法要 3月11日11:00～ 法堂にて

東日本大震災から5年が経過。当時の本学在学学生も、震災で尊い命が奪われた。震災を風化させないため、また犠牲者の供養のために法要を行う。

(11) 定例坐禅会(ウィークエンド坐禅会) 坐禅堂にて

前期 6月7日～7月19日 各土曜日9:00～10:30

後期 9月13日～12月20日 各土曜日9:00～10:30

主催 東北福祉大学仏教専修科・生涯学習支援室

(12) 朝課 毎日8:00～8:30 法堂にて

主に常勤教職員が朝のお勤めを行う。

(13) 大学訪問者への施設案内・坐禅体験 等

中・高校生、PTA 関係者等が本学を訪問した際に施設案内（坐禅堂・法堂）を行い、更には坐禅体験をすることで興味関心を持っていただき、上級学校への進学意欲を持たせることを目的に行った。

4月23日	石巻市立蛇田中学校 2年生	6名
5月14日	新潟市巻地区民生児童委員	25名
5月20日	山形県西川町立西川中学校 2年生 6名、登米市立登米中学校 2年生 4名、山形県東根市立東根第2中学校 2年生	20名
7月16日	白石市立福岡中学校 3年生	7名
7月29日	福島県立福島南高校 PTA	20名
9月4日	岩手県立花泉高校 PTA	25名
9月18日	福島県立保原高校 PTA	25名
10月2日	福島県福島明成高校 PTA	30名
11月12日	山形県最上中学校 3年生	6名
11月13日	仙台市立仙台高校 PTA	12名